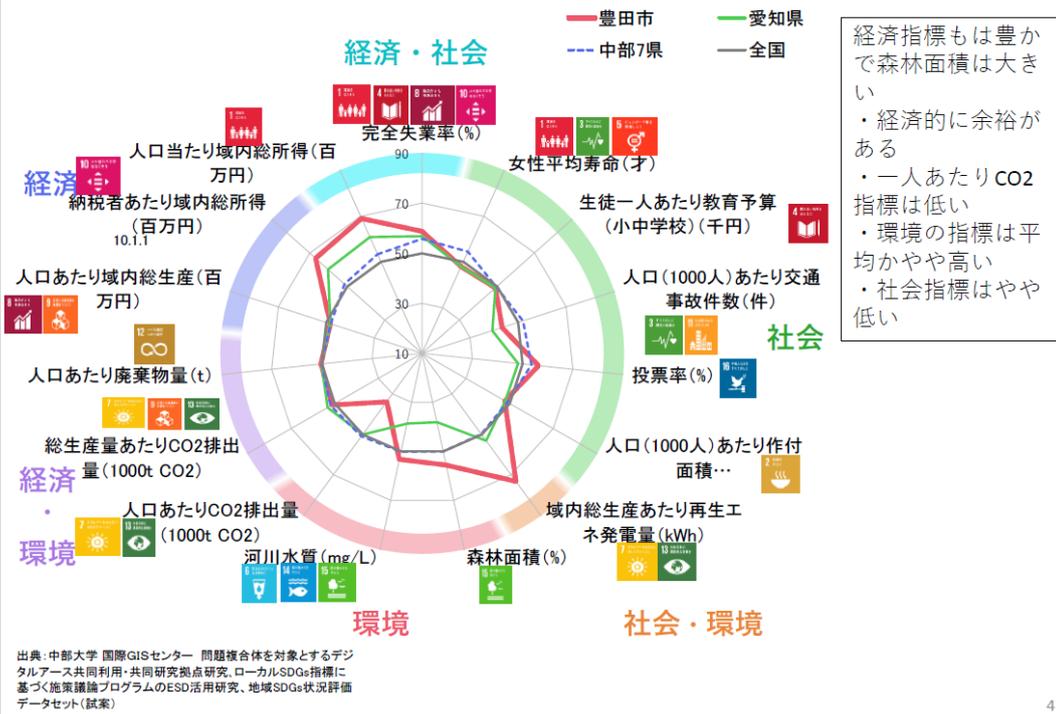


SDGs状況評価データ自治体レーダーチャート(豊田市)

豊田市 偏差値チャート

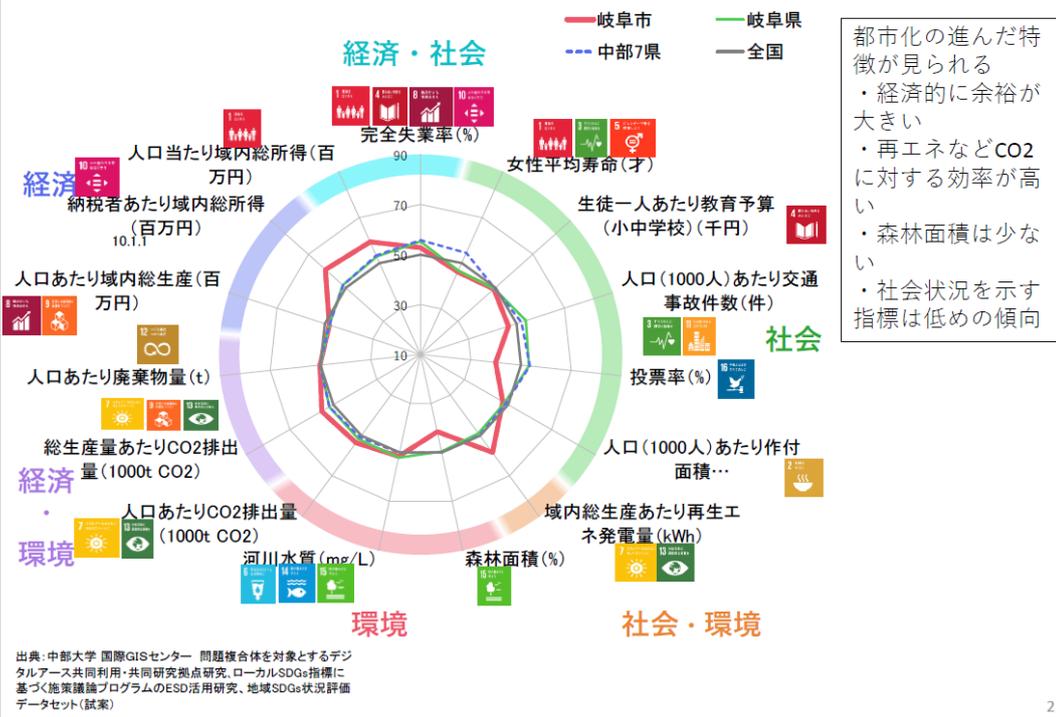


経済指標もは豊かで森林面積は大きい

- ・経済的に余裕がある
- ・一人あたりCO2指標は低い
- ・環境の指標は平均かやや高い
- ・社会指標はやや低い

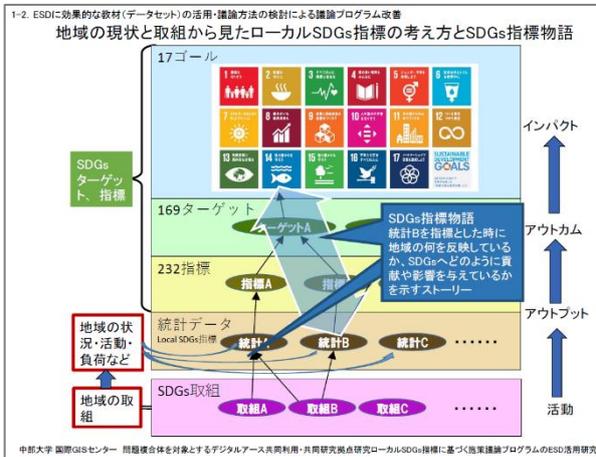
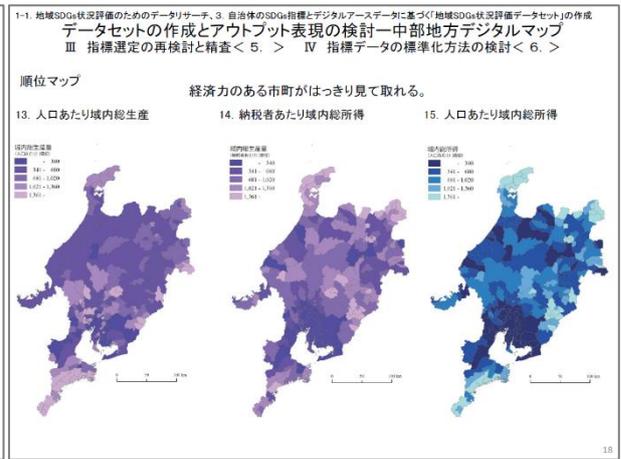
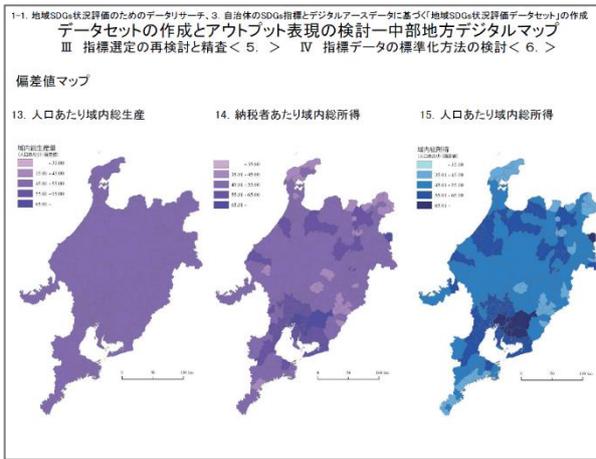
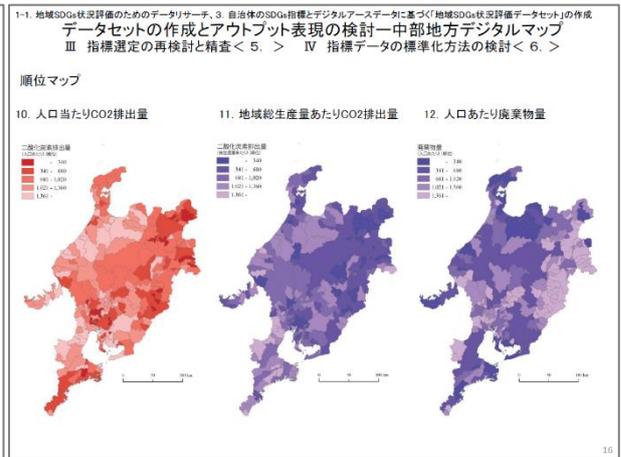
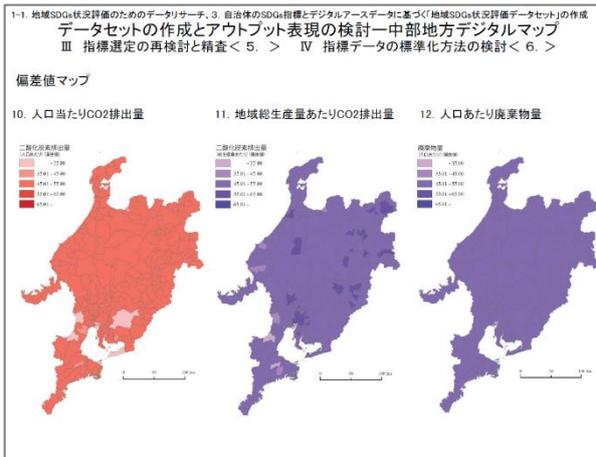
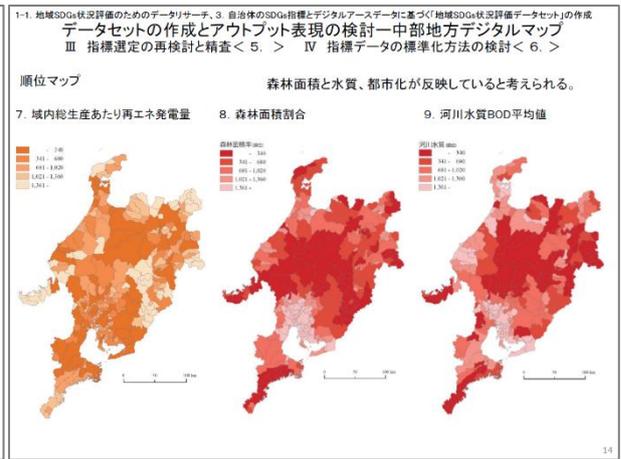
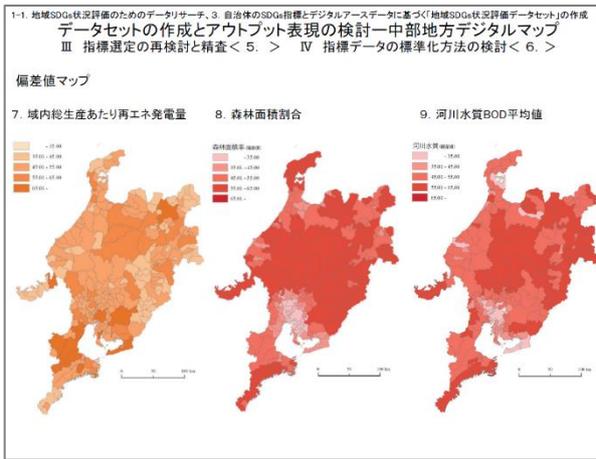
SDGs状況評価データ自治体レーダーチャート(岐阜市)

岐阜市 偏差値チャート



都市化の進んだ特徴が見られる

- ・経済的に余裕が大きい
- ・再エネなどCO2に対する効率が高い
- ・森林面積は少ない
- ・社会状況を示す指標は低めの傾向



8 関係主体との連携及び協働に関する業務

(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

ア 定期打合せと日々の業務報告の提出

(ア) 定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回以上実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4月9日	1. 「第6期事業計画」「令和3年度業務実施計画」について 2. 関係者への連絡・調整が必要なイベント/会合等について 3. 運営会議について: 委員への連絡(第1回会議の日時設定)等 4. PF事業採択団体ヒアリングの進め方について 5. その他
第2回	4月27日	● PF事業について、PFのと共栄信用金庫のヒアリング実施結果、PF郡上市地域共生圏協議会との事務局打合せをうけて、各団体に関する情報共有、今後の支援のあり方等について確認
第3回	5月18日	1. 業務全体について 2. ESD/EPO運営委員会について 3. 主催イベント/会合等について 4. PF事業について 5. その他
第4回	6月22日	1. PF事業について 2. 主催イベント/会合等について 3. 活動主体へのフィードバックについて 4. その他
第5回	7月12日	1. PF事業について 2. 主催イベント/会合等について 3. 第1四半期報告書の確認 4. その他
第6回	8月19日	1. 業務全体の実施状況確認 2. 主催イベント/会合等について 3. PF事業 4. その他
第7回	9月15日	1. EPO中部・第6期リーフレット原稿案について 2. 名古屋市(なごや環境大学)の「錦SDGsWEEK」への参加企画について 3. 主催イベント/会合等について 4. PF事業 5. その他 (1)次回打合せ (2)EPO中部ウェブサイトのアクセス数のカウント方法について (3)その他
第8回	10月12日	1. EPO中部・第6期リーフレットの修正原稿 2. 主催イベント/会合等について 3. PF事業 4. 第2四半期報告書の確認 ※出力原稿をEPOが準備 5. その他
第9回	11月18日	1. PFなおSDGsスイッチについて 2. PF郡上について 3. PF応募団体へのヒアリングについて 4. その他
第10回	11月22日	1. 業務実施状況全体の確認 2. EPO中部・第6期リーフレット(印刷完成) 3. 主催イベント/会合等について 4. PF事業について 5. 第2回ESD/EPO運営委員会(2/28開催)について 6. その他 (1)次回打合せ (2)外部評価 (3)その他

	実施日	主な打合せ協議事項
第11回	12月20日	1. 業務実施状況全体の確認 2. 主催イベント/会合等について 3. PF事業について 4. 第2回 ESD/EPO 運営委員会(2/28 開催)について 5. イベントニーズ、行動変容ヒアリングの(一部)提出 6. その他
第12回	1月20日	1. 業務実施状況全体の確認 2. 主催イベント/会合等について 3. PF事業について 4. 第2回 ESD/EPO 運営委員会について 5. 外部評価委員会について 6. 第3四半期報告書について 7. その他 ・次回打合せ ・EPO ウェブサイトのサーバー容量の拡張費用 ・その他
第13回	2月21日	1. 業務実施状況全体の確認/未実施業務について 2. 主催イベント/会合等について 3. PF事業について 4. 第2回 ESD/EPO 運営委員会(2/28 実施)について 5. 年間報告書 6. その他
第14回	3月15日	・年間報告書、及び概要版について

(イ) 日々の業務報告提出

- 日々の業務については、所定の様式による「月次報告書」を作成し、業務内容等を記入したものを毎月（月初めに）、中部地方環境事務所へ提出した。

イ 中部地方環境事務所が主催する外部評価委員会への対応等

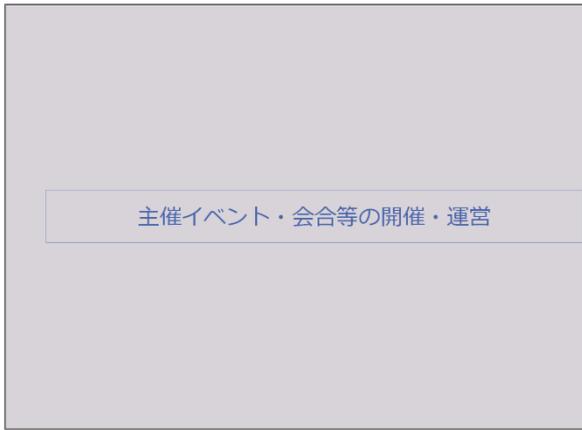
- 中部地方環境事務所が実施した外部評価委員会に下記の通り対応、出席した。

行事等	実施日/実施方法	EPO 中部による対応
外部評価委員会	2月14日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ● 2021年度EPO中部業務報告資料、及び自己評価シートを作成・記入。 ● EPO 中部スタッフ 3名が同席し、上記資料の説明、質疑対応などを行った。

【外部評価委員会に提示した2021年度EPO中部業務の説明資料】

※2022年1月末現在の実施状況について作成・提出。

<p>環境省 中部地方環境事務所 第6期・EPO中部/ 中部地方ESD活動支援センター 2021年度の業務報告</p> <p>2022年2月14日</p>	<p>第6期・EPO中部 中部地方ESD活動支援センター 2021年度の業務報告</p>	<p>主催イベント・会合等の開催・運営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. EPO中部主催イベント・会合 2. ESDセンター主催イベント・会合 <p>地域循環共生圏づくりの支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 主に実施した支援 4. 具体的な支援対象：PF団体や連携団体 <p>独自ツール等の作成・活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. EPO中部ウェブサイト公開ツールの充実化 6. 中部版ESDワークブックの作成 7. SDGs実践状況等の評価：SDGs指標物語の構築・活用 <p>相談対応等の基本業務</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 相談問合せ件数と対応状況 9. ウェブサイトの更新状況とアクセス数 10. 第6期EPO中部(中部ESD活動支援センター)の新リーフレット作成 <p>参考)</p> <p>業務成果把握のためのヒアリング(行動変容ヒアリング)</p>
--	---	--



1. EPO中部主催イベント・会合等

区分	開催日	エリア	設置	参加人数	内容・登壇者等
協働コーディネーター連携フォーラム	11月20日	福井県 越前市	現地	23人	● 協働コーディネーター・三田村氏と連携。 ● テーマ「里山里海資源の収益化と地域循環の創出を目指して」の地域循環共生圏フォーラムを開催。
SDG/地域循環共生圏セミナー	1月10日	中部	オンライン	40件	● 主に自治体職員等を対象に実施する実践ワーキングセミナーを開催。 ● 日本福祉大学・干頭先生が登壇。
森里川海推進ネットワーク形成会	1月2日 2月3日	白山国立公園	現地 予定	-	● 白山市ジオパーク・エコパーク推進課との連携して企画・開催。 ● 自然資源のワイズユースをテーマに、ジオパーク・エコパーク協定締結団体(事業者・活動者等)との情報交換会を開催。
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	6月26日 1月27日 2月4日 2月23日	長野県 飯山市 岐阜県 郡上市 福井県 小浜市 石川県 七尾市	オンライン オンライン ハイブリッド ハイブリッド	22件 15人 22件 -	● 2018-2019年度実施の同時解決事業採択団体、長野財務事務所ほか、飯山市の地域づくり団体などが登壇。 ● PF郡上による「地域商社」設立をテーマに意見交換を実施。 ● 郡上市、岐阜財務事務所などが出席。 ● 地域活動のソーシャルビジネス化をテーマにした意見交換を実施。 ● 北陸財務局、日本政策金融公庫などが登壇・参加。 ● PFなおが主催する市民大学受講生や、PFなお関係者などを対象にしたフォーラムを開催。 ● BPT大学教員・谷年氏、北陸財務事務所、GEOCが登壇。
協働コーディネーターと連携した実践活動	1月13日 2月28日 12月17日	長野県 長野市 福井県 小浜市	オンライン オンライン 現地	149件 未 15人 236人	● 協働コーディネーター・山笠氏と連携。 ● 長野市手井地区で地域循環共生圏づくりの普及啓発を実施。 ● 協働コーディネーター・中島氏と連携。 ● 小浜市において地域循環共生圏づくり推進活動を実施。

EPO主催イベントの開催案内チラシ等 1/3

A. 協働コーディネーターと連携したフォーラム

里山里海資源の収益化と地域循環の創出を目指して

日時：2021年11月20日(土)13:30~16:30
会場：越前市市民会館1階大会場

協働コーディネーターと連携して開催。地域の活動者等23名が参加。PR事業への応募を検討中。

B. SDG/地域循環共生圏セミナー

地域循環共生圏づくりと地域課題の同時解決からローカルSDGsを考える

日時：2021年1月10日(土)18:00~19:30
会場：オンライン開催

自治体職員等を40件の接続あり。

オンラインホワイトボード使用。

EPO主催イベントの開催案内チラシ等 2/3

C. 森里川海推進ネットワーク形成会

白山手取川ジオパーク&白山国立公園エコパーク情報交換会

日時：2021年1月2日(土)13:00~16:00
会場：白山市市民会館1階大会場

協定締結団体(事業者・活動者等)との情報交換会を開催。

D. 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

環境省の同時解決事業(2018-2019)採択団体が取組発表。

日時：2021年1月26日(土)14:00~16:00
会場：オンライン開催

長野財務事務所との関係構築。

EPO主催イベントの開催案内チラシ等 3/3

D. 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

小浜市「ローカルSDGs」開催案内

日時：2021年1月27日(土)10:00~12:00
会場：小浜市市民会館1階大会場

北陸財務局、日本政策金融公庫との関係構築。

北陸財務局との関係構築。

参考) 2021年度業務における協働コーディネーターとの連携展開

連携する協働コーディネーター	連携実施
■ 山室秀俊氏(長野県NPOセンター 事務局長)	● 長野市手井地区で地域循環共生圏づくりの普及啓発事業を実施
■ 中島高史氏(NPO法人 WACおがばま理事長)	● 福井県小浜市におけるSDGs・地域循環共生圏の推進活動を実施 ● 中島氏ほか小浜市の地域活動を題材に、ソーシャルビジネスの勉強会を実施
■ 三田村佳政氏(合同会社ローカルSDGsクリエーション社長)	● 福井県越前市で里山里海保全活動の収益化をテーマにした地域循環共生圏フォーラムを開催
■ 塚勇人氏(環境市民プラットフォームとやま)	(※ESD業務) ● SDGs社会教育(社会ESD)研究会業務で連携 ● 同業務の実践活動で六渡寺海岸(白山県射水市)の漂流ゴミ問題から、庄川、小浜川流域のSDGs的な衛生的な体験イベントを実施
■ その他コーディネーター	● 次年度以降に展開するEPOの業務や主催イベントに対するニーズ・ヒアリングを実施

参考) 過去2カ年度によるPS基盤強化業務等の実施事項

2. ESDセンター主催イベント・会合等

区分	開催日	エリア	設置	参加人数	内容
自然資源を活かした地域づくりESDダイアログ	11月13日~14日	白山県郡 吉野川 高尾山(野木町)	ハイブリッド	37人+8人(カスカ)13人	● 中部のジオパークをテーマに「自然資源を活用したESD」ダイアログを白山県郡ジオパーク協会の協力を得て開催。 ● 水谷委員、吉野川4Rリリアの団体が登壇。 ● 2日目に立山黒部ジオパーク内の教育関連プログラム4箇所を見学。
ESD/SDG推進ネットワーク地域フォーラム	2月19日	中部	オンライン	-	● 昨年度に続く、SDGs学生サミットとして開催。 ● 8大学の学生が取組発表。 ● 伊藤委員が登壇。
ESD/SDG推進のための実践セミナー	8月26日 9月16日 10月30日	中部 中部 六渡寺 海岸(白山県射水市)	オンライン オンライン 午前:現地 午後:オンライン	65件 38件 現地4人+23件	● 「SDGs社会の「担い手」とは」をテーマに開催。 ● 水谷委員、佐藤真久氏(東京都大学大学院環境情報科学研究科教授)が登壇。セッションに伊藤委員、古澤氏(中部大学国際ESD・SDGセンター准教授)も登壇。 ● 「「担い手」育成のためのESDとは」をテーマに開催。 ● 伊藤委員、古澤氏が登壇。セッションに水谷委員も登壇。 ● 「海岸ゴミ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ」をテーマに、午前:六渡寺海岸清掃らみ合い体験、午後セミナー・ワークショップを開催。 ● 学びあひ必要登壇者、六渡寺自治会などが登壇。
ESD/SDG推進のための実践セミナー	(全国ESDフォーラム)	全国	オンライン	-	● 全国ESDセンター主催フォーラムで、上記の学びあひ〜実践活動について報告・発表
ESD/SDG推進のための実践セミナー	1月27日 2月28日 2月28日	-	①オンライン ②現地	8人	● 専門家ワーキングとして実施。メンバー:古澤氏、水谷委員、伊藤委員。 ● SDGs社会教育・実践セミナーでの実施事項、中部版ESDワークブックについて検討。

センター主催イベントの開催案内チラシ等 1/2

自然資源を活かした地域づくりESDダイアログ

自然資源を活かした地域づくりESDダイアログ2021
 2021年11月19日(土)14:00-16:00
 会場：山梨県立自然環境センター

1日目 14:00-16:00
 2日目 14:00-16:00

11

センター主催イベントの開催案内チラシ等 2/2

ESD/SDGs推進のための交流機会提供

SDGs学生サミット
 2022年2月19日(土)開催
 13:30-16:00

ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

SDGs社会教育
 学び合いの場①
 &実践セミナー

12

SDGs社会教育研究会専門家コメンターと実働内容について

- 全国ESDフォーラム分科会活動（公開、中部地方及びその他の地域から参加者募集）
- 「社会ESD学びあいの場」の開催（2回、オンライン）
 - 勉強会、意見交換会となる学びあいの場を設営、開催（話題提供とディスカッション）
 - 話題提供者は専門家コメンター、中部地方ESD活動支援センターを想定
 - 実践活動（1回、現場・オンラインのハイブリット）
 - 学びあいを踏まえた現場とオンライン併用のSDGs社会教育実践セミナーの開催。
 - 「PECとやま」の実績とネットワークを生かして、高山市に八ヶ岳を置いた実施を想定。
 - 全国ESDフォーラムへの参加（1回、現場での開催想定/全国センター主催）
- SDGs社会教育研究会ワーキング（非公開、専門家コメンター・WGによる）
- 研究ワーキングの開催（3回、現場またはオンライン）
 - 第1回研究ワーキング：SDGs社会教育体系とワークブックの構成、実践活動開催計画
 - 第2回研究ワーキング：学びあいの場開催評価、事例整理、ワークブックコンテンツ
 - 第3回研究ワーキング：全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映
- 専門家コメンターWG案、敬称略
- 専門家コメンター
- 古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長
 - 水上聡子 EPO中部運営委員 アリマス・バイオコム大研究科長
 - 堺 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長
 - 原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤）
- オブザーバー
- 環境省中部地方環境事務所 担当官
 - 事務局
 - 清本三郎 中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

13

地域循環共生圏づくりの支援
 （環境省事業プラットフォーム（PF）採択団体への支援等）

14

3. 主に実施した支援

① 環境省事業PF採択(3団体)

- EPOは各PFにヒアリングして必要な支援計画を立案、必要に応じて併走支援
- 環境整備2団体については「意見交換会」を実施
- 経済・金融関係主体との連携強化業務（PS基盤強化業務）と関連づけた会合等の実施

② 協働コーディネーターとの連携による実践事業（小浜市、長野市の2エリアで実施）

③ 協働コーディネーターとの連携によるフォーラム開催（※）

④ PF応募予定団体等の掘り起しと応募の後押し（ヒアリング実施）

参考）地域循環共生圏及び環境省のプラットフォーム構築事業について
<https://www.esd-chubu.jp/teha/area>

自治体職員等を対象にしたワーキングの開催：地域循環共生圏の普及啓発（毎年名古屋で開催）

主催フォーラムに関心の喚起（左側※と運動）

自然資源のワイスユースをテーマにした業務で勉強会開催

15

4. 具体的な支援対象：PF団体や連携団体

① 一般社団法人スマート・テロワール協会（長野県上高井郡小布施町）
 ※事業化支援（全国事務局による支援）

② 郡山市地域共生圏協議会（岐阜県郡上市）《以下、PF郡上》

③ のど共栄信用金庫（石川県七尾市）⇒PFとなるコンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」設立《以下、PFなお》

④ 山室氏（長野県NPOセンター事務局長）と連携して長野県内でローカルSDGsの勉強会等

⑤ 中島氏（NPO法人 WACおばま理事長）と連携して福井県小浜市で地域循環共生圏づくりの推進事業

⑥ 三田村氏（ローカルSDGsクリエーション社長/元越前市役所職員）と連携して福井県越前市でローカルSDGsフォーラム開催予定

⑦ 森里川海業務（森里川海運ネットワーク形成会）：白山市ジオパーク・エコバーク推進課との連携による自然資源のワイスユースをテーマにした会合を検討

⑧ 基盤強化業務（PS）共主パートナーシップ基盤強化業務、1.左のPF ②、③を対象にした勉強会（計2回）、2.環境省同時解決事業実施エリア（長野県飯山市）での情報交換会、3.左の中島氏活動を題材にしたソーシャルビジネス勉強会を実施

EPO中部が実施した地域循環共生圏づくり支援の内容を整理し、プログラムとしての公開

16

PF事業支援①：PFのど共栄信用金庫⇒ななおSDGsスイッチ（1年目採択団体）

① 納得すること

② 懸念や課題

③ 上の①②を共有して考えたこと

DFの意見交換会

● 9月29日に（PFコンソーシアム設立を前に）、関係者が集まる「意見交換会」をハイブリット開催で実施。EPO中部が企画・運営（ファンリレーション）を支援。

● コンソーシアム関係者が抱えている懸念・課題を明確化し、コンソーシアム設立（10月16日設立式）に向けて、協力連携体制のさらなる強化を図った。

17

PF事業支援②：PF郡上市地域共生圏協議会（2年目採択団体）

【常設型】意見交換会と【集約型】会合で「これか？」をまずは共有する

● 11月10日にSDGs実践意識を持つアウトドア事業者と採択団体による「意見交換会」を実施し、EPO中部が企画・運営（ファンリレーション）を支援。

● アウトドア事業者が目指している観光のあり方を明確化し、次ステップで「地域商社」設立について議論することになった。

18

独自ツール等の作成・活用

19

5. EPO中部ウェブサイト公開ツールの充実化

EPO中部 環境パートナーシップオフィス

●● EPO中部ウェブサイトを2020年12月リニューアル公開
<https://www.epo-chubu.jp>

活動見える化チャートで事例の蓄積(追加公開)

EPO中部が支援した取組、連携・協力した取組などを「活動見える化プログラム」にして、地域別にフィードバック、同時に、ウェブサイトにも掲載・公開。

EPO中部、協働コーディネーターのリストの更新
 復活した方、辞退した方などがないため、最新情報に更新。地域循環共生圏事業でも連携・協力あり。

EPO/ESDCが実施するワークショップ等のプログラムやツールを公開する新コーナー

前年度実施したワークショップ「SDGs共感ストーリーづくり」のプログラム、ツールを公開予定。

20

活動見える化チャートによる事例の公開 (事例の蓄積/2事例追加予定)

▼この取組でPF事業への応募を検討▼

協働コーディネーター連携業務で開催したイベントの開催案内チラシ▼

「アポアテ」

フォーラム共催団体の目指す地域づくりの取組を「見える化チャート」に整理して解説。

「ローカルSDGs 29-7777」

21

実施支援プログラムをウェブサイトに公開 (作業中)

EPO中部のワークショップ・プログラム

ワークショップの選別、開催時期

使用したスライド、ツール資料なども公開。

22

6. 中部版ESDワークブックの作成

- 資料調査と事例の収集分析
 センターの運営や有識者ヒヤリング、イベント開催などを通じて、関係する資料や事例の記録を収集する。特に5-7交流会の提供(分科会活動)を通じた情報収集に注力する。
- ワーキンググループの設置と開催
 有識者と実務者からなるワーキンググループを設置し、ワークブックVr.1作成に向けたディスカッションを3回実施する(SDGs社会教育研究ワーキングにて実施)。
- コンテンツの作成
 ワークブックのコンテンツ内容について作成する。

ワークブックVr.1の目次構成想定(現段階の仮案)
 現場から学ぶ! SDGs人材育成ワークブック~企業研修/生涯学習/地域づくり/の学び合いヒント

- ワークブックの意義と位置づけ
- ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
- 「SDGs社会教育」の学習目標~どんな人になってほしいか
- 「SDGs社会教育」の実践方法の例~誰を対象にした、どんな学習方法があるか
- 実践体制をどのように構築するか~中部地方の実例から
- 効果をどう見るか

23

7. SDGs実践状況等の評価: SDGs指標物語の構築・活用

対象とした地域の取組について影響を受ける公的指標を選定し「SDGs指標物語」*を活用したSDGs体系との関連性の説明と影響の増加または負影響の顕在の評価を二つの事例で試みる。

SDGs指標物語 選定した指標について、地域の環境、経済、社会の状況の表している内容と、SDGsとの関連性について示す解説

地域でのSDGsの取組

SD状況 (1, 2, 3) 正影響 (取組評価)

地域の状況・活動・負荷等

unSD状況 (1, 2, 3) 負影響 (取組評価)

増加で評価 B組管理

増加 A増加 A減少

統計A

SDGs達成に対し指標Aの増加は真実、減少は偽善とする場合

SDGs指標物語 (例)

統計AはゴールO、Q、Oの達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。統計Aは地域の①の状況を表す。①では状況が統計Aには増加する一方、②では状況が悪化しは減少する。指標Aが増加する指標Aの指標力に②のように影響ターゲットAの指標力に寄与する。また統計Aの増加はターゲットAに寄与する。統計Aの増加のために指標Aは①、②の正影響のあるSD状況(持続可能性に貢献する活動)が必要で、地域のSDGs取組は正影響の増加で評価される。一方①、②の負影響があるunSD状況(持続可能性に貢献する活動)によりAは減少するため、悪化させる地域のSDGs取組が必要となり、負影響の顕在で評価される。またその他unSD状況によってはゴールOについて指標Aが増加する可能性があった。そうならないようにする取組が必要となる。

232指標 169ターゲット

24

相談対応等の基本業務

25

8. 相談問合せ件数と対応状況

	相談に対し(広域)協力以外の支援対応を行った事例件数※1	照会・相談対応等の返信件数	実案件数 返信件数※2	相談・照会、資料 取寄せ依頼等	会費利用	その他情報収集、資料収集等	メール・電話による相談、問合せ等 返信件数※2
2021年度 4月~12月 合計	40	173	73	14	18	41	100
2020年度 4月~3月 合計	41	274	83	10	52	21	191

※1) 事例件数 最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとをカウントした数となっている。
 ※2) 返信件数 同案件・用途での来稿、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

【2021年度の支援対応を行った相談についての分類】

月	相談件数	相談方法				相談主体の分類										EPOによる支援内容分類				
		電話	メール	来所	その他	学校教員	大学関係	自治体	企業	NPO・NGO	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他		
2021年度 4月~12月 計	40	13	9	8	10	5	5	10	6	4	4	6	2	14	3	7	5	5	1	3

26

9. ウェブサイトのアクセス数

区分	※Googleアナリティクス				※サーバー会社のアクセスレポート(弊サイト/AWSStats)使用				
	訪問者数 (単位:人)	訪問件数 (単位:件)	ページビュー 数	平均ページ 数	※2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
4月	446	717	3,310	7.42	24,015	66,930	59,319	19,311	32,869
5月	588	858	2,955	5.04	18,148	56,864	30,230	18,382	37,951
6月	625	898	3,574	5.72	21,314	61,297	29,150	20,080	27,827
7月	594	877	4,279	4.94	29,666	92,720	58,914	18,763	19,792
8月	639	919	2,203	3.45	25,428	43,742	38,479	17,688	25,807
9月	418	681	1,923	4.60	24,902	43,419	72,097	14,795	34,714
10月	775	1,331	4,015	5.18	34,750	42,768	75,127	16,176	24,051
11月	526	860	2,791	5.31	48,487	38,630	102,551	16,289	18,034
12月	521	810	2,271	4.36	45,615	35,352	182,209	31,808	33,287
計	5,132	7,841	25,033	5.05	270,225	441,522	623,518	173,272	244,292

※ 2020年度末集計のウェブサイトのリニューアルに伴い、アクセス数の集計方法がGoogleアナリティクスに移行し、従来の集計元としていたサーバー会社のアクセスレポートが特殊システムでの集計だったため変更することになった。

27

相談対応からの展開；自治体との連携

「NISHIKI SDGs WEEKs」への企画参加

名古屋環境局からの相談対応(後援依頼)をきっかけに、なごや環境大学主催イベントに、EPO中部施設を活用する形で2つのプログラムで企画参加した。

① SDGsチェックリスト活用ミニワークショップ

- 2021年11月8日に、独自ツール「SDGsチェックリスト」等を活用した1時間のミニワークショップを、会場：EPO中部にて2回開催。
- 1回目・2回目合わせて13人が参加。



② EPO内に「SDGs資料の特設コーナー」を設置

- 2021年11月8～12日の間に、EPO施設内にSDGs資料コーナーを設け、自由に来館、配架資料の持ち帰りができることなどを、NISHIKI SDGs WEEKs関連広報でPR。
- 期間内に計18人が来館。

- 今回の参加者・来館者にはEPOのことをNISHIKI SDGs WEEKsで知った方もいる。
- その後、別イベントへの参加、SNSのフォローをしてくださった方もいる。

28

10. 第6期EPO中部(中部ESD活動支援センター)の新リーフレット作成

29

参考) 業務成果把握のためのヒアリング (行動変容ヒアリング・計6件実施予定)

業務	2021年6月26日開催・地域循環共生圏PS基盤強化事業「ローカルSDGs×飯山」ミーティング
対象	(登壇者) 飯山ウェルネス研究会代表
内容	● ミーティングの登壇者・団体に招聘され、別のフォーラムに登壇・参加し、プロジェクト(環境省同解決事業2018-2019採択)の取組紹介を行った。
結果	● こちらのフォーラムでも、情報交換やディスカッションが盛り上がり、今後、地域づくり団体同士の交流や、地域及び地域活動の活性化を目的に、SDGsをテーマにしたイベントを飯山市或いは北信エリアで協力・連携して開催していきたいと話合っている。(残念ながらコロナ等の関係により、その後、具体的な進展までには至っていない。)
業務	2021年11月20日開催・越前の森里川沿で取り組む地域循環共生圏フォーラム
対象	(登壇者) 開催協力) 合同会社ローカルSDGリエーション
内容	● 参加した地域活動者・団体による地域循環共生圏づくりに取り組みとうするモチベーションが向上。次年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業への応募に向けて、調整を進めているところである。
結果	● ワークショップで抽出された様々なアイデアや意見を、参加者が所属団体に持ち帰り、各団体の次年度計画等へ反映しようとする動きもみられる。
業務	2021年9月11日・12月17日開催・小浜市地域循環共生圏ワークショップ
対象	(共催・協働コーディネーター) NPO法人WAGおばま
内容	● 第1回目のワークショップが特に市役所職員にとって参考となったようであり、開催後に全職員を対象に開催してほしいという声がかかった。
結果	● 小浜の地域づくり・まちづくりは、従来の地域活性化一辺倒から中々脱却できずにいたが、まちづくり協議会等の勉強会参加者が、SDGsや地域循環共生圏など、持続可能な地域づくりに向けた新しい潮流について理解してもらうことができた。

30

ウ 環境白書を読む会への協力

- 7月20日開催の「環境白書を読む会」について、主催の中部地方環境事務所、なごや環境大学への企画協力、登壇者への謝金支払などを行ったほか、参加者募集の広報協力をウェブサイト、Facebook ページで展開した。
- 当日は EPO 中部スタッフもオンライン参加し、なごや環境大学からは後日に参加者アンケート結果資料と、視聴者数(212名)の報告をうけた。

【なごや環境大学が作成した開催案内チラシ】

エ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- ユース環境活動発表大会の中部大会の審査員として、EPO 中部からは、堺勇人氏（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま) 事務局長）を推薦した。
- ブロック別大会がオンライン開催に変更となったことをうけて、2022 年 1 月に公開された中部ブロック大会をオンライン（YouTube）で視聴し、EPO 中部ウェブサイトを紹介記事を掲載した。

第7回全国ユース環境活動発表大会《中部地方大会》が開催されました

2022.02.03

EPOレポ

第7回全国ユース環境活動発表大会中部地方大会が開催されました。

昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐ為に、「Web発表大会」の形式で大会を実施しました。中部地区からは7校が参加し、ユース世代が社会課題の解決に向けた実践活動の発表を行いました。

中部地方大会 出場校（全7校）

長野県木曾青峰高等学校	里山部
長野県佐久平総合技術高等学校	食品加工部
岐阜県立岐山高等学校	team 太陽電池ひろめ隊
岐阜県立八百津高等学校	自然科学部
愛知県立佐屋高等学校	科学部
愛知県立安城農林高等学校	土壌研究研修班
三重県立四日市四郷高等学校	自然科学部

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

～EPOスタッフも視聴しました～

◆長野県木曾青峰高等学校里山部から「青峰里山プロジェクト」について発表がありました。青峰から未来へつながる里山づくりをスローガンに、里山の整備と活用・農林業活性化に向けた新スタイルの提案・世代をこえた交流里山体験の場の創造にむけて活動したのになりました。活動によって木曾地域の人口減少・高齢化・担い手不足を解消し、青峰を活性化させたいという内容でした。

◆長野県佐久平総合技術高等学校食品加工部から「佐久酒粕（サクサケ）プロジェクト」について発表がありました。酒粕をアップサイクルし持続可能な地域を目指す！という目標に向けて活動し、酒粕の新たな活用方法を提案しているものでした。地元の企業やお店と連携し商品開発した酒粕メロンパン・サクサケクッキーを高校の購買で販売し、さらには駅などで販売している実用化に向けた内容でした。

◆岐阜県立岐山高等学校自然科学部化学講座team太陽電池ひろめ隊から「色素増感太陽電池」について発表がありました。より性能のよい色素増感太陽電池の作成の為に実験を行い、実用に向け研究したものでした。今後は革品を極力使わず、身近にある材料（廃野菜など）を利用した太陽電池を作り食品ロスの問題も解決していきたいという内容でした。

◆岐阜県立八百津高等学校自然科学部から「アメリカザリガニから学ぶSDGs」について発表がありました。アメリカザリガニの体内からマイクロプラスチックが見つかった事により、スーパーで販売している魚介の体内を調査したところマイクロプラスチックが発見されました。その事から人の体内にも吸収されている可能性があり、ゴミの正しい分別が環境・社会・経済に関わりSDGsにつながるという内容でした。

オ 記者発表等のメディア対応

- 今年度実施したイベント等では、次の2イベントで、共催・協力した地域側団体がメディア対応・記者発表を行った。
- 11月13日・14日開催のESDダイアログにおいて、共催の（一社）立山黒部ジオパーク協会が、開催地である富山県富山市等の地元紙・テレビ局等への記者投げ込みを行い、地元ケーブルテレビ局からの取材参加があった。
- 10月30日開催・実践セミナー（六渡寺海岸／富山県射水市）では、協力団体：PEC とやまによる呼びかけで、地元テレビ局職員が参加した。

(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等について、次の会合に出席・参加した。

No.	会議名等	開催日	場所/方法	概要/プログラム等
1	PF 事業第1回共有会	5月12日	オンライン	・PF 事業について ・新規活動団体(20)へのヒアリング結果 ・意見交換 ・情報交換会(キックオフ)について
2	全国 ESD 連絡会	5月27日	オンライン	・ESD を巡る最近の動向について ・地域拠点アンケートについて ・全国フォーラムの日程・会場について(報告) ・「分科会」活動について
3	PF 事業 キックオフミーティング(1日目)	6月1日	オンライン	・今年度選定団体(継続団体)の発表 ・地方ブロック別コミュニケーションタイム など
4	PF 事業 キックオフミーティング(2日目)	6月2日	オンライン	・今年度選定団体(新規団体、事業化支援団体)の発表 ・地方ブロック別コミュニケーションタイム など
5	第1回 ESD 活動支援企画運営委員会	6月22日	オンライン	(1)ESD 活動支援センター2020 年度事業報告について (2)ESD 活動支援センター2021 年度事業について ・可視化タスクフォース ・「分科会」活動 ・全国フォーラムの日程・会場(ご案内) (3)その他
6	全国 EPO 連絡会(1日目)	6月28日	香川県高松市	【議題1】EPO ネットワーク事業について 【議題2】外部連携について(令和3年度/今後3年程度)
7	全国 EPO 連絡会(2日目)	6月29日	香川県高松市	事務所会議・EPO 受託者会議 エクスカージョン:NPO 法人アーキペラゴ主宰の女木島ピーチクリーンアップ
8	地域経済循環分析ツール勉強会	7月15日	オンライン	①地域経済循環分析の解説 ②地域経済循環分析ツールの解説 ③質疑
9	第1回 アドバイザリー委員会	7月29日	オンライン	・今年度の「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業概要」について ・論点について:環境整備活動団体のカテゴライズについて(コアチームを構成する主体別/主軸となる事業別)、コアチームを構成する主体別課題について(①共通する課題、②地方公共団体、③営利組織、④非営利組織) ・意見交換
10	EPO 向け脱炭素レクチャー	8月19日	オンライン	脱炭素についての基礎的知識を獲得出来る機会として、JCCCA の方を講師に迎えたセミナー
11	寺子屋ローカル SDGs(第3回)~学び編~ 『エコツーリズムのススメ~持続可能な地域創造のツールとして~』	8月30日	オンライン	①講義等(エコツーリズムの基本的な考え方、地域におけるエコツーリズム推進のプロセス、SDGs との親和性と地域への広がり、企業連携による地域産業化への取組) ②質疑応答
12	PF 構築に向けた有識者会議(第1回)	9月1日	YouTube 視聴	(1)令和3 年度プラットフォーム構築の進め方について ・令和3 年度事業の進め方について ・環境整備団体への支援方針と課題について (2)地域循環共生圏に係るその他の事業の進捗状況について

No.	会議名等	開催日	場所/方法	概要/プログラム等
13	寺子屋ローカルSDGs(第4回)～学び編～『エネルギーの地産地消からはじまる地方創生』	9月8日	オンライン	①講義等 ・環境省(脱炭素をめぐる世界と日本の動向) ・ローカルエナジー株式会社(エネルギーの地産地消の基本、事例紹介) ②質疑応答
14	PF事業ブロック別共有会(中部エリア)	9月9日	オンライン	・環境整備活動団体毎に情報共有 ・その他確認
15	PF事業第1回作業部会	9月10日	オンライン	・全国事務局の状況共有(GEOCのポジションと仮説) ・3つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換(“いけてる”案件) ・3つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換(“いまいち”案件) ・グループ毎の意見交換を全体へフィードバック
16	本省-EPO ネット情報共有会(脱炭素・瀬戸法関係)	9月10日	オンライン	・改正地球温暖化対策推進法について ・改正瀬戸内海環境保全特別措置法について
17	第1回プラットフォームのあり方に関する検討WG	9月14日	YouTube視聴	議題1:令和3年度ワーキンググループの進め方(全体方針) 議題2:プラットフォーム事業全体の目標・ビジョンについて
18	外部資金 全国EPO会議	9月14日	オンライン	・地球環境基金説明会の開催概要等についての確認 ・グリーンギフトの今後の展開、各団体の状況等について確認
19	PF事業ブロック別共有会(他ブロック)	9月15日	オンライン	・環境整備活動団体毎に情報共有 ・その他確認
20	EPOミーティング:基盤ネットワーク系	9月21日	オンライン	・EPOカタログ作成(案)について ・共生圏PF事業下半期予定について
21	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業に係る第1回事業検討会議	9月22日	オンライン	・各アドバイザーからの活動・事例紹介:①株式会社日本政策金融公庫、②草の根金融研究所「くさの一ね」、③環境・エネルギー部環境・エネルギー政策室 ・事例共有 ・各地方事務所の取組・課題への質問など ・不足情報へのアドバイス・質疑応答
22	ESD全国・地方センター会議	9月24日	オンライン	・全国フォーラム(開催方法、目的、プログラム等)について ・識者ヒアリングについて ・センター事例集について
23	ESD全国・地方センター会議	10月7日	オンライン	・識者ヒアリングについて:候補者・スケジュールの確定 ・全国フォーラムについて ・全体テーマの決定、パネルディスカッションの登壇者(分野・候補者)の絞り込み、分科会のグループ分け合意・進め方検討
24	地域循環共生圏フォーラム2021	10月27日	オンライン	・オープニング「なぜ今こそ地域循環共生圏なのか」 ・分科会①～⑨ ・関係省庁による地域循環共生圏づくりに関連した事業・取組紹介①～③ ・Beyondミーティング×地域循環共生圏フォーラム2021
25	基盤強化:情報交換会①	11月30日	オンライン	・金融機関や企業に対して、SDGsやESGについてどのようにコミュニケーションをとればよいか。 ・その時に必要となる知識は何か、どのように学べばよいか。
26	PF事業中間報告会(1日目)	12月3日	オンライン	・事業化支援団体、環境整備団体(計6団体)によるプレゼンテーション ・意見交換会
27	全国ESDフォーラム分科会打合せ	12月3日	オンライン	・関東ESDC、四国ESDCの登壇者を含め顔合わせ、ディスカッション方法等について調整
28	PF事業中間報告会(2日目)	12月6日	オンライン	・事業化支援団体、環境整備団体(計11団体)によるプレゼンテーション ・意見交換会
29	PF事業中間報告会(3日目)	12月7日	オンライン	・事業化支援団体、環境整備団体(計11団体)によるプレゼンテーション ・意見交換会
30	PF事業第2回作業部会・中間報告振り返り会	12月8日	オンライン	・事例研究:3EPO1グループで事例発表・説明+意見交換
31	PF事業第2回共有会	12月8日	オンライン	・環境整備支援状況の共有 ・PF事業全体の共有 ・来年度についての議論の共有
32	第2回プラットフォームのあり方に関する検討WG	12月9日	YouTube視聴	・議題1:プラットフォーム事業の全体像について ・議題2:地域循環共生圏の全国への広がり測定する指標について ・総括
33	全国ESDフォーラム	12月11日	オンライン	・基調報告 国内外のESD推進の動向とESD推進ネットワークの役割 ・パネルディスカッション 脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは

No.	会議名等	開催日	場所/方法	概要/プログラム等
				・分科会「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の挑戦ー ①脱炭素社会づくりとESD～気候変動教育と、拠点の学び合い～ ②SDGsを活用した教育×地域のチャレンジ ③地域に根ざした多様なSDGs人材育成
34	全国ESDネット打合せ	12月16日	オンライン	・全国ESDフォーラム報告 ・1月開催連絡会について
35	PF構築に向けた有識者会議(第2回)	12月20日	YouTube視聴	(1)環境整備の進捗に関する報告 (2)次年度の新規団体と継続団体の選定方針(案)について (3)地域循環共生圏づくりプラットフォーム全体像について
36	EPO合宿(1日目)	1月7日	福岡県北九州市	・EPOカタログについて:事例研究、情報交換
37	EPO合宿(2日目)	1月8日	福岡県北九州市	・EPOカタログについて:検討事例共有、ネットワーク全体の価値言語化
38	第2回 全国EPO連絡会	1月11日	東京	・【議題1】令和3年度事業(主にEPO基盤業務)進捗及び成果の共有 ・【議題2】令和4年度事業の予定 ・【議題3】環境省本省からのトピックス ・分科会(EPO会議)
39	GEOC打合せ	1月12日	東京	・ESD業務について
40	全国ESDネット打合せ	1月18日	オンライン	・全国センターウェブ構築について ・連絡会開催に向けて
41	第2回 全国ESD連絡会	1月26日	オンライン	・【報告】2021年度活動状況及び地方ESDネットワークの成果(地方センター) ・【報告】2021年度の活動状況(全国センター) ・【報告】2022年度環境省・文部科学省の施策の方向性 ・【報告】ESD活動支援センターウェブサイトの今後の方針について ・【報告・協議】2021年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」総括(地方・全国センター) ・【協議】ESD推進ネットワークの今後の方向性について
42	基盤強化:情報交換会②	1月26日	オンライン	・講演「ESG経営実践の現状とノウハウ・ツールについて」 ・講演「旧観光協会が地域商社機能を担うまでの過程と地域経済循環について」
43	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業に係る第2回事業検討会議	2月8日	オンライン	・令和3年度PS基盤強化事業の進捗及び成果共有 ・アドバイザーも交えて不足情報へのアドバイス・全体ディスカッション
44	第2回 アドバイザリー委員会	2月15日	オンライン	・R3 地域循環共生圏PF事業進捗報告 ・R4 地域循環共生圏PF事業の予定
45	EPOと地球環境基金の連絡会議	2月16日	オンライン	・助成金要望・交付決定等について ・全国及び地方ユース環境活動発表大会について ・コロナ禍の環境市民活動の現状と支援について
46	第2回ESD活動支援企画運営委員会	2月17日	オンライン	開会:文部科学省・環境省・ESDセンター長より挨拶、出席者紹介 1. ESD活動支援センターの本年度主要事業について(報告) ・ESD活動支援センター(全国・地方)活動状況 ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト ・ESD推進ネットワーク全国フォーラム ・ネットワーク可視化タスクフォース 2. ESD推進ネットワークの今後の方向性について 3. その他
47	成果報告会	3月8日	オンライン	・各活動団体取組内容の発表 ・ネットワーキングイベント
48	PF事業 第3回共有会	3月9日	オンライン	・R3年度事業の振り返り ・事業全体について共有・議論 ・令和4年度事業について共有

※地域循環共生圏PF事業、ESD業務関連会議については各該当章にも記載。

9 外部資金を活用した事業

(1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

- 予算：545,000 円
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症等の情勢・影響を鑑みた結果、福井、愛知、三重の各団体で、下記の代替事業等が実施された。

福井	小原 ECO プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">● 第1回イベント：7月31日(土)実施。● 当初予定の8月28日第2回イベントは中止。代替事業として勝山市内の赤兎山にて外来植物駆除活動を実施。
愛知	もりの学舎	<ul style="list-style-type: none">● 昨年10月より、2回イベント実施予定(11・12月と8・9月)であったが、いずれも中止。代替事業として、『元気の森「手作り生きもの図鑑」』を作成し、9月末時点で完成。
三重	Joint Plus	<ul style="list-style-type: none">● 7月17日から延期となった8月21日第1回イベント、9月4日第2回イベントが中止。代替事業として「森林の紙芝居」を作成し、9月末時点で完成。

(2) 地球環境基金

- 年間予算：300,000 円

(ア) 地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 第1回全国 EPO 連絡会(6月28日～29日)において、昨年度同様、①「全国ユース環境活動発表大会」中部地方大会、②「令和4年度地球環境基金説明会」の開催支援を EPO が行う旨の説明があった。
- 9月14日に実施された GEOC 及び全国 EPO によるオンライン会議で、来期・2022年度地球環境基金の説明会の開催概要と EPO の協力事項についての確認を行った。
- 2月16日に EPO と地球環境基金の連絡会議がオンラインで実施され、「助成金要望・交付決定等について」「全国及び地方ユース環境活動発表大会について」「コロナ禍の環境市民活動の現状と支援について」の情報共有を行った。

(イ) 地球環境基金の次年度募集に関わる説明会の開催

- 来期募集基金についての中部説明会を、主催：環境再生保全機構、協力：EPO 中部により、10月26日に開催し、後日、実施報告書を作成して機構側へ提出した。

①提出した2022年度地球環境基金説明会の実施報告書

別紙1

2022年度地球環境基金助成金説明会（中部地区）

概 要

- 【行事名】 地球環境基金助成金説明会 in 中部
 【日時】 2021年10月26日（火）18:00～19:30
 【実施方法】 オンライン開催
 【参加者】 12名
 【内容】
- 挨拶 小林 大 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）
- 第一部 セミナーと活動事例紹介 [テーマ：地球温暖化防止・脱炭素]
 講師：原理史氏（中部大学中部高等学術研究所）
 (1) テーマ別セミナー「気候危機とSDGs～私たちのライフスタイルを考える～」
 —気候危機・SDGsをキーワードに、私たちが個人や家庭でできる賢い選択（COOL CHOICE）や環境配慮行動への働きかけにおける周囲の人との認識共有について話題提供を行った。
 (2) 中部地域における助成先団体の活動事例紹介
 [2020年度・2019年度・平成30年度／ひろげる助成]
 「COOL CHOICE」普及啓発に資する「ナッジ」の応用手法の研究と適用
 (助成先団体：一般社団法人環境創造研究センター)
 —調査研究の概要及び3年間の研究で得られた成果と、地球環境基金の助成を受けたことによる団体の変化や助成金の特徴（感じたこと）について話題提供を行った。
- 第二部 2022年度地球環境基金助成金の説明
 説明：福田 晃二郎 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）
 (1) 地球環境基金助成金について
 —2022年度地球環境基金助成金について、「概要と助成メニュー」、「前年度からの変更点（採択に係る審査方針等の改定）」、「コロナ禍への対応」、「特別助成（地域循環共生圏）」、「企業協働プロジェクト～LOVE BLUE 助成～」、「要望時の留意事項」、「応募スケジュール」、「助成の特徴」を中心に説明いただいた。
 (2) 2022年度助成金の要望書の書き方講座
 —要望書記入時の留意点や作成のポイント（「ロジックモデル」、「採択のポイント」等）について、冊子「募集案内」や説明動画の案内を交えて説明いただいた。
 ※参加申込者には(1)(2)に関する説明動画を事前視聴し、参加いただくよう依頼した。
 (3) 質疑応答…(1)(2)に関する質疑応答等

質 問	回 答
初めて応募するため応募条件について詳しく伺いたい（滋賀県で野鳥保全を行う団体/2年目）。	活動歴1年以上の団体が応募できる「はじめる助成」と「つづける助成」が条件にあると思われる。「ひろげる助成」は活動実績が3年以上となり、応募条件から外れる。
応募書類（書式）について、エクセルのスペース内に納めるべきか。	用意されているセル（スペース内）に納めていただくポイントが伝わりやすい。地球環境基金では、特にロジックモデルの流れを重視している。要望書を書くことで活動計画が整理されると思われるため、工夫して作成していただきたい。
コロナ禍においては、予想外の出費や緊急事態等によ	「大幅な変更を認めない」との記述はあるが、来年度の活動を11月に計画することになるため、この2

<p>る変更が生じ、計画通りに活動ができず臨機応変に変えていくこととなった。計画の変更については、随時「変更届」の提出が必要となるのか。</p>	<p>年は、内定後（6月頃）にあらためて活動計画を書いていただく。4月から個別面談を実施し、やりとりを経て申請書を提出していただく。今年度についても、交付決定後にコロナの影響があったため、通常は年1回であるが、随時計画変更を出していただくこととなる。</p>
--	---

【その他補足事項】

- ・別日程の「個別相談会」については、日程調整のうえ事務局から連絡差し上げる。
- ・要望書の提出について、締切日は混み合うことでシステムがスムーズに動かない時間帯があるため、早目のエントリーをお願いしたい。

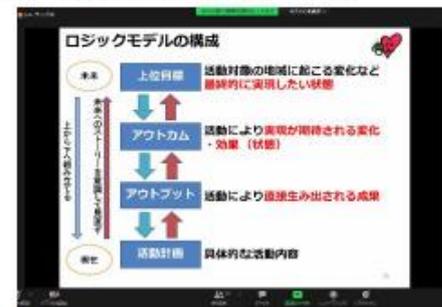
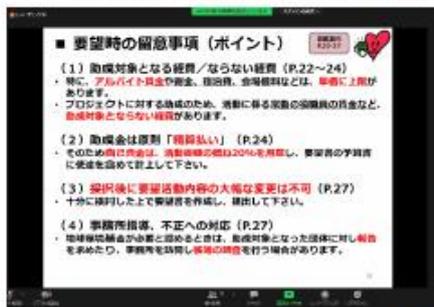
【説明会の様子】

▼テーマ別セミナー【地球温暖化防止・脱炭素】

▼中部地域の助成先団体の活動事例紹介



▼2022 年度地球環境基金助成金の説明（留意事項及び要望書の書き方について）



▼質疑応答



以上

②開催案内チラシ

2022年度

地球環境基金助成金説明会 in 中部

開催日時 2021年10月26日(火)
18:00~19:30

開催方法 オンライン開催 (zoom)
中部地域以外の方もご参加いただけます。

プログラム

第一部 18:00~ セミナーと活動事例紹介

講師：原 理史氏 (中部大学中部高等学術研究所)

① テーマ別セミナー

「気候危機とSDGs~私たちのライフスタイルを考える~」

② 中部地域における助成先団体の活動事例紹介

[2020年度・2019年度・平成30年度/ひろげる助成]

「COOL CHOICE」普及啓発に資する「ナッジ」の応用手法の研究と適用

(助成先団体：一般社団法人環境創造研究センター)

第二部 18:50~ 地球環境基金助成金要望の募集について

- ① 地球環境基金助成金について
- ② 要望書の書き方講座
- ③ 質疑応答 …申込時に受け付けた質問にお答えします。

地球環境基金Webページ
<https://www.erca.go.jp/jfge/>
から事前視聴のうえご参加ください。

申込締切
10/22
(金)

オンライン 個別相談会

説明会参加者を対象に個別相談会を実施します

実施日程 2021年11月8日(月)・11月9日(火)
各日10:00~12:00、15:00~17:00、18:30~19:30
地球環境基金の担当者をご相談を承ります (1団体15分以内)

申込方法 説明会の参加申込フォームからお申し込みいただけます。
実施日時は、オンライン個別相談会事務局より個別にご連絡し、調整の上決定します。

オンライン個別相談会事務局

関東地方環境パートナーシップオフィス (関東EPO)
TEL: 03-3406-5180 メール: kanto-epo@geoc.jp

地球環境基金は…

民間団体 (NGO・NPO) による環境保全活動を幅広く支援 (資金の援助等) を行うことを目的に、独立行政法人環境再生保全機構によって運営されている基金です。来期・2022年度の助成金交付先の募集を開始するにあたり、全国8地域・テーマで説明会を開催します。説明会では、テーマ別セミナーや各地域における助成先団体の活動事例を紹介するほか、要望書記入についての留意点や作成のポイントを説明し、事前に受け付けた質問等に地球環境基金の担当者が回答します。全国の説明会の日程やテーマは、webページからご確認ください。



地球環境基金
webページ

申込み & 問合せ

参加申込フォーム



参加申込フォームからお申し込みください。
開催日前日にzoomの参加URLをお送りします。

環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
TEL: 052-218-8605 ⚠️ 電話による申込は受け付けておりません。

主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
協力：環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)



地球環境基金

(3) 愛知県コーディネーター業務

- 年間予算：902,000円
- 環境学習に関する愛知県内の学校・企業等からの相談、照会依頼に対し、年間で相談業務10件、コーディネーター業務7件を実施した。

No.	受付日	依頼先区分	分野	依頼内容	相談業務	コーディネーター業務	
						実施日	講師等
1	5月25日	行政	水	豊川市生活排水クリーン推進員を対象とした、親子で参加可能な生活排水学習会のコーディネーター(講師および内容の提案)。	①	10月30日	小野氏(公益財団法人河川財団 名古屋事務所 環境教育担当)
2	6月1日	行政	生態系・生物多様性	市制50周年記念事業の一環として行う環境学習(市内に棲む生物にふれあう授業)の講師の紹介および企画内容の提案。	②		
3	6月9日	小学校	SDGs	総合的な学習の時間におけるSDGsの授業の講師の紹介。	④	1月20日	原理史氏(中部大学中部高等学術研究所)
4	7月6日	小学校	SDGs(陸の環境)、土・土壌、自然への愛着	理科と総合学習の時間を合わせて行っている「山に棲む生物の生態について」の授業の内容と講師の紹介。	①	10月5日	水谷央氏(もりの学舎 代表理事)
5	7月9日	行政	プラスチックごみ問題	海洋プラスチックごみ問題を学ぶ女性団体(一般)向けの勉強会の講師の紹介。	③		
6	7月29日	民間	ごみ・資源循環、3R、国際理解、生態系・生物多様性	WTOC「教室から世界一周!」プロジェクトの実施対象者の紹介。	④		
7	7月28日	小学校	地球温暖化、SDGs	地球温暖化に関わる授業の講師の紹介。	⑤	(10月8日)	
8	7月28日	小学校	地球温暖化、SDGs	地球温暖化に関わる授業の講師の紹介。	②	10月13日	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
9	7月28日	小学校	地球温暖化、SDGs	地球温暖化に関わる授業の講師の紹介。	③	10月20日	原理史氏(中部大学中部高等学術研究所)
10	8月31日	民間	生態系・生物多様性、エネルギー、ごみ・資源循環、3R	自然・環境保護・エネルギー等「環境の保全」に繋がる講話の講師の紹介。	⑥	10月23日(中止)	①原理史氏(中部大学中部高等学術研究所)②村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
11	8月31日	民間	生態系・生物多様性、エネルギー、ごみ・資源循環、3R	自然・環境保護・エネルギー等「環境の保全」に繋がる講話の講師の紹介。	⑦	10月30日(中止)	①長谷川明子氏(ビオトープ・ネットワーク中部会長)②浅野啓子氏(専門学校非常勤講師)
12	8月31日	民間	生態系・生物多様性、エネルギー、ごみ・資源循環、3R	自然・環境保護・エネルギー等「環境の保全」に繋がる講話の講師の紹介。	⑧	11月6日(中止)	①原理史氏(中部大学中部高等学術研究所)②村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
13	10月6日	民間	生態系・生物多様性	環境学習イベントの学習内容案に対するアドバイザーの紹介。	⑨		
14	11月15日	行政	自然への愛着、生態系・生物多様性、生命	保育園・幼稚園で行う環境に関する講義の講師の紹介。	⑩		
15	11月26日	行政	マイクロプラスチック問題	市民向け環境講座の講師の紹介。	⑪	3月12日(中止)	児玉剛則氏(名古屋産業大学大学院非常勤講師)
16	12月16日	民間	生態系・生物多様性、地球温暖化、エネルギー	ガスエネルギー館で実施する小学生とその家族を対象とする環境学習講座の講師の紹介。	⑥	6月ごろ	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
17	12月20日	小学校	水、自然への愛着	小学校にあるビオトープや自然を知るための授業の講師の紹介。	⑤	2月17日	長谷川明子氏(ビオトープ・ネットワーク中部会長)
18	2月25日	行政	地球温暖化、エネルギー、自然への愛着	緑のカーテン講座の講師の紹介。	⑦	5月	堀田英夫氏(地球温暖化防止活動推進員)
合計					10	7	

10 今後に向けて

ア 基本業務

(ア) EPO 施設の利用・相談対応について

①現状・課題の整理

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターへの相談件数、来館者数の伸び悩みと共に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策等の影響を受けて、EPO 施設の利用促進をどのように図っていくかが課題となっている。
- 一方、EPO 施設へ来ていただく数等は多くないが、EPO スタッフが外部へ招聘される件数、業務等に関連して地域側へ打合せに出向く件数、及びオンラインでの打合せ件数などは増加しており、EPO 施設の利用のあり方、EPO 側による対応のあり方などがある意味、過渡期、或いは転換期にあるとも考えられる。

②今後の展開

- 外部評価委員会においても委員から、EPO 側が地域側へ出向いて実施する打合せ等も EPO 利用として捉えることができるとの指摘をいただいております、EPO 施設外で対応した打合せや顔合せ、調整・説明のための会合等も、EPO 利用であると捉えた整理を行い、今後も積極的に地域側へ出向く対応、オンラインを活用した対応を展開していく必要がある。
- 今年度に企画参加した「NISHIKI2 SDGs WEEKs」でのミニ・ワークショップが好評だったこと、またこの企画をきっかけに EPO を認知した参加者もいたことから、新型コロナウイルス感染防止対策にも留意した上で、自主企画による少人数のミニ・ワークショップ（及び SDGs チェックリストの活用）による EPO の利用促進策も考えられる。

(イ) ウェブサイト等による情報発信について

①現状・課題の整理

- 2020 年 12 月にリニューアルを行った EPO 中部ウェブサイトは、イベント情報を紹介するのみのツールからローカル SDGs、地域循環共生圏づくりに取り組む地域を支援するサイトと位置づけ、SDGs チェックリストなどの独自ツールの公開、活動見える化プログラムを活用した事例の紹介・蓄積を行うサイトとして位置づけ、コンテンツの充実化を図ってきている。
- 今年度、第 6 期（2021 年度～2023 年度）の開始に伴い、EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットを新規に作成し、イベント等での配布を行っている。
- Facebook ページでは即時的な拡散を目的とした情報の投稿を行っており、これまでのところ、適度な「いいね」「フォロー」数の増加はあまり広報効果がなく、関係者等が記事を「シェア」した際にリーチ数（ビュー数）が大きく伸びる傾向がみられる。

②今後の展開

- EPO 中部ウェブサイトのリニューアルからは 1 年が経過したのみで、コンテンツはそれほど増えていないことから、引き続き、SDGs チェックリストなどの独自ツール、活動見える化プログラムを活用した事例チャートなどを作成・蓄積し、公開・更新していく必要がある。
- 新たなツールとして、主催イベントや会合等で実施しているワークショップ等のプログラム及びツールの整理・公開に今年度から着手しており、ローカル SDGs 実践・地域循環共生圏づくりに取り組む地域／団体が活用可能なツールとして、今後実施するワークショップ等についても公開していくことが考えられる。
- リーフレットについても、引き続きイベント等で参加者に配布すると共に、第 1 回

ESD/EPO 運営委員会で委員から提示があった、EPO による地域づくり・ESD による人づくりで一体的に地域を支援することを図化した見開き図を、主催イベント、講師招聘等の再 EPO/ESD センターを紹介・説明で活用していくことが可能である。

- SNS については今後もできるだけ「シェア」される記事投稿を目指すと共に、イベント等の協力団体や EPO 中部・協働コーディネーターと相互に記事の「シェア」を行い、SNS の特性を活かした広報展開を図る必要がある。

イ EPO 業務

(ア) 協働コーディネーターなどの地域活動主体との連携について

①現状・課題の整理

- EPO 中部・協働コーディネーターとの連携によるイベント開催等では、地域側の関係者等が多数集まり、地域ニーズに即したイベント開催が可能になっている。
- 協働コーディネーター側の事情等により、リスト掲載のコーディネーターの数は年々減少しており、またリストに掲載されているコーディネーターについても、本業等で活躍されている多忙な方ばかりであるため、実際に EPO と連携・協力して取組等を行っているコーディネーター（連携・協力を呼びかけて応答してくれるコーディネーター）は限定的となってきた。
- 地域の関係機関と連携・協力して開催する主催イベントにおいて、地域側の意向を重視し、地域の関係者との調整に時間をかけたイベントは、当初予定より後ろ倒しのスケジュールでの開催となる傾向があった。

②今後の展開

- 今年度を実施した行動変容ヒアリングでは、EPO 主催イベント開催に対する地域側にとっての意義を知ることができた。また、それが EPO 業務としての明文化された成果把握になっていると共に、地域側の地域づくりに対するニーズ・課題把握にもつながっていることから、行動変容ヒアリングを今後も実施することが有効と考えられる。
- 協働コーディネーターとの連携については、地域での実践的な取組に欠かせない協力者であり、引き続き、連携・協力してローカル SDGs 実践・地域循環共生圏づくりの取組を展開していく必要がある。
- 一方で、連携可能なコーディネーターが限定的となってきたことから、地域循環共生圏 PF 構築事業や PS 基盤強化会合等で連携・協力している、各地域活動で中心的な役割果たしている主体等との新しいネットワークづくりも必要とされている。
- 主催イベントについて、EPO 主導で開催すべきイベント・会合と、地域側の意向を重視すべきイベント・会合とがあり、どちらを重視すべきか各業務の目的・性質上から見定めたいうえで、イベント業務の企画立案、及び地域側との調整を進めていく必要がある。

(イ) 主催イベントについて

①現状・課題の整理

- 今年度のイベントはいずれも「地域循環共生圏」「ローカル SDGs」をテーマに開催しており、次年度もこれらが中心テーマになるものと考えられる。
- 開催時期、イベントの内容によって、オンライン、ハイブリッド、リアル会場のいずれの方法で開催するかを決定しているが、特定エリアのみを対象にしたイベント・会合は、特に地方ではオンライン・ツールに慣れていない年配の活動者が多く、リアル会場にならざるを得ないことが多い。
- そうした理由により、リアル会場での開催予定であったが、関係者の家族に新型コロナ感

染患者が発生した関係で、急遽オンライン開催となった会合もあった。

- EPO 業務では地域案件ベースでの取組が多く、主催イベント・会合も特定エリアを対象にしたイベント・会合（「フォーラム in〇〇」など）が殆どであるが、オンライン、リアルに関わらず、参加者が地域限定となるため、参加者数が少なくなりがちである。

②今後の展開

- 次年度の EPO イベントも「地域循環共生圏」「SDGs（ローカル SDGs）」「脱炭素」及び経済団体・金融機関との連携が重要テーマとなることが予想される。また、引き続き、地域的なイベント・会合開催が多くなるものと考えられる。
- 第2回 EPO/ESD 運営委員会で委員から指摘があったように、「地域内の調整を目的とした」イベント・会合については、参加者数にこだわることなく、開催目的の達成を優先・重視すべきである。
- エリアが特定されないイベントや、中部全体／東海地方を対象にしたイベントは EPO 中部そのものの PR にもつながるため、戦略的広報の一環として、幅広い参加が見込めるイベント開催も望ましい。
- 但し、同様のテーマ・内容によるイベントは、本省・中部地方環境事務所、GEOC・ほかの地方 EPO もオンライン開催する可能性が高く、EPO 中部が開催する意義についての検討は要するものと考えられる。

(ウ) 地域循環共生圏づくりへの支援について

①現状・課題の整理

- 地域循環共生圏づくり PF 構築事業については、全国的な支援の枠組み等もあり、業務としての対応、団体側への支援に迫られがちで、地域循環共生圏の本質に触れる地域支援ができていなかった部分もある。
- 地域循環共生圏づくりで経済・金融分野の巻き込み、関係構築が重要となっているが、PS 基盤強化の業務として EPO と経済・金融関係者との関係構築はできているが、案件としての成立や、地域団体と経済・金融関係機関との新たな関係構築にまでは至っていない。

②今後の展開

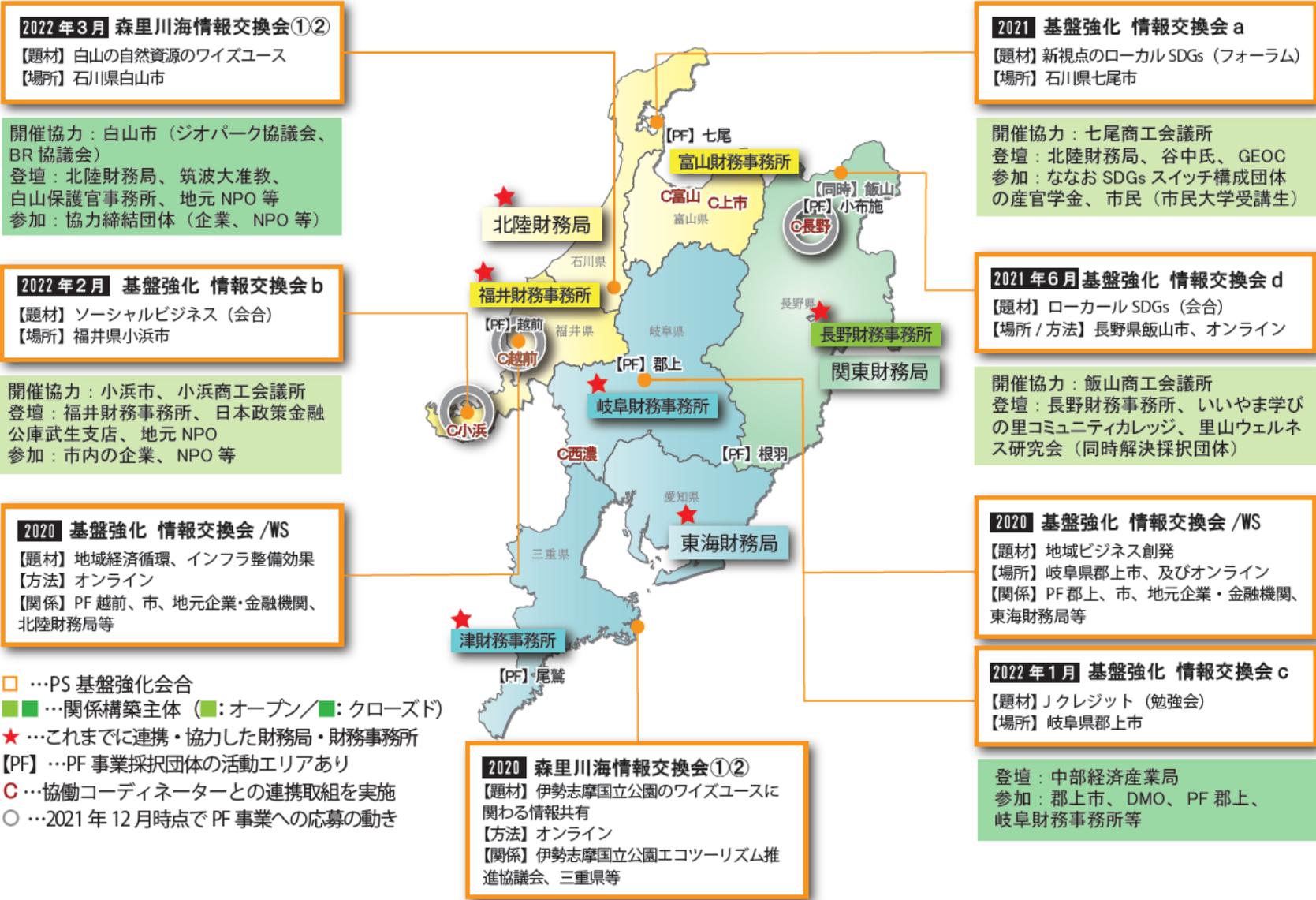
- 地域循環共生圏づくり PF 事業については、今後も各団体／地域ごとに支援の見立てを行い、細やかに対応していく必要がある。
- 経済・金融機関の巻き込み、関係構築については、地域・取組内容によって関係を構築すべき対象が異なってくることを念頭に、これまでに EPO が関係構築を行ってきた財務局・財務事務所、そのほか金融機関・経済団体等とも連携・協力して、地域活動者等と経済・金融機関とがつながる場を引き続き設営していく必要がある。

(エ) SDGs 実践評価について

①現状・課題の整理

- 連携先からの情報収集等により SDGs の評価に関わる様々な知見を収集した結果、SDGs のゴール、ターゲット、インデクスに対して、地域の SDGs 取組評価には乖離があり、橋渡しをする必要があることが明らかになった。
- 連携した研究機関の情報から基礎自治体の統計値をもとにした SDGs 評価データベースを入手し、岐阜市、珠洲市、豊田市について 15 の指標に基づく統計レーダーチャートを作成した。ただしこれらの評価指標は必ずしもすべての SDGs 状況を説明するものではなく、また基礎自治体レベルの評価にとどまり、個々の活動の評価とどのように関連づけるかが課題となる。

【参考）2020-2021 年度に実施した PS 基盤強化事業による会合】



2022年3月 森里川海情報交換会①②
 【題材】白山の自然資源のワイズユース
 【場所】石川県白山市

開催協力：白山市（ジオパーク協議会、BR協議会）
 登壇：北陸財務局、筑波大准教、白山保護官事務所、地元NPO等
 参加：協力締結団体（企業、NPO等）

2022年2月 基盤強化 情報交換会 b
 【題材】ソーシャルビジネス（会合）
 【場所】福井県小浜市

開催協力：小浜市、小浜商工会議所
 登壇：福井財務事務所、日本政策金融公庫武生支店、地元NPO
 参加：市内の企業、NPO等

2020 基盤強化 情報交換会 /WS
 【題材】地域経済循環、インフラ整備効果
 【方法】オンライン
 【関係】PF 越前、市、地元企業・金融機関、北陸財務局等

- …PS 基盤強化会合
- …関係構築主体（■：オープン／■：クローズド）
- ★ …これまでに連携・協力した財務局・財務事務所
- 【PF】 …PF 事業採択団体の活動エリアあり
- C …協働コーディネーターとの連携取組を実施
- …2021年12月時点でPF事業への応募の動き

2020 森里川海情報交換会①②
 【題材】伊勢志摩国立公園のワイズユースに関する情報共有
 【方法】オンライン
 【関係】伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会、三重県等

2021 基盤強化 情報交換会 a
 【題材】新視点のローカルSDGs（フォーラム）
 【場所】石川県七尾市

開催協力：七尾商工会議所
 登壇：北陸財務局、谷中氏、GEOC
 参加：なお SDGs スイッチ構成団体の産官学金、市民（市民大学受講生）

2021年6月 基盤強化 情報交換会 d
 【題材】ローカルSDGs（会合）
 【場所/方法】長野県飯山市、オンライン

開催協力：飯山商工会議所
 登壇：長野財務事務所、いいやま学びの里コミュニティカレッジ、里山ウェルネス研究会（同時解決採択団体）

2020 基盤強化 情報交換会 /WS
 【題材】地域ビジネス創発
 【場所】岐阜県郡上市、及びオンライン
 【関係】PF 郡上、市、地元企業・金融機関、東海財務局等

2022年1月 基盤強化 情報交換会 c
 【題材】Jクレジット（勉強会）
 【場所】岐阜県郡上市

登壇：中部経済産業局
 参加：郡上市、DMO、PF 郡上、岐阜財務事務所等

②今後の展開

- 基礎自治体の統計値をもとにした SDGs 評価データベースでは、指標について評価の意味を SDGs に対して説明するストーリー「SDGs 指標物語」が試作されている。この考え方を活用し、個々の地域の SDGs 活動評価を SDGs 体系への関連付けを行うことが考えられる。そこで「活動見える化プログラム」の分析結果を基に例として抽出した指標について「SDGs 指標物語」作成し、基礎自治体で試作された内容との比較や関連付けを検討することを試みる事が考えられる。

ウ ESD 業務

(ア) 交流機会提供(学び合いプロジェクト)について

①現状・課題の整理

- 地方センターが独自にテーマを決めて特色ある活動を行う学び合いプロジェクトでは、当センターはテーマを「ローカル SDGs のための ESD の社会実装～SDGs 社会教育を考える」とした。この中で、社会の ESD 推進を検討するため「SDGs 社会教育研究」ワーキンググループを立ち上げ、専門家の議論とともに、3回の研究会、2回のオンラインセミナー、1回の実践セミナーを通じ、ESD 実践とともに SDGs 社会教育の枠組みを検討した。また議論の内容を「現場から学ぶ！SDGs 人材育成ワークブック」プロトタイプ版の案としてとりまとめた。
- ESD 実践では2回のオンラインセミナーの ESD 理念や事例紹介について参加者が地域の見直しをきっかけとなったり、実践セミナーでは参加者自身の活動の動機付け向上につながるなど具体的な成果事例が見られた。
- ただし取扱いテーマが社会教育という広範な対象であるため、ワークブックのプロトタイプは必ずしも具体的なヒントまで焦点化できているとは言えず、使いやすいものにバージョンアップすることが課題となる。

②今後の展開

- 今年度、他の地方センターとの交流を通じて、気候変動教育が重要なテーマであることが議論されている。そこで SDGs 社会教育の対象として「気候変動教育」をテーマ候補とし、WG 専門家を交えて議論するとともに、セミナー等の開催を実践することで具体的な事例を集積することが考えられる。それらの実績を基にワークブックに具体性を持たせヒント集として活用できるようにバージョンアップすることが必要となる。

(イ) ESD ダイアログについて

①現状・課題の整理

- 第5期まで実施してきたユネスコエコパークからユネスコジオパークにフィールドを変更し立山黒部ジオパークで ESD ダイアログを実施した。これにより中部地方のジオパークの関係者や関係教育機関・教育者の交流が進み新たなネットワークが構築された。
- 中部地方のジオパークのネットワーク交流を進めるとともに、エコパークや自然公園とも連携しつつ ESD 事例や知見の交流を進め、自然資産を ESD の重要なパーツとして活用する枠組みを充実発展させることが課題となる。

②今後の展開

- 中部地方のジオパーク交流をエコパークや自然公園を含めて推進するため、他のジオパークをフィールドとした ESD ダイアログを開催することを検討する。
- また中部地方以外のエコパークやジオパークとの ESD ダイアログでの交流や、それを通じ

た自然資産の ESD における意義の発信を検討するなどにより、全体の枠組みを充実させることが考えられる。

- 特に今後、ジオパークなどに登録を目指している地域は ESD に関心があると考えられこうしたニーズの発掘を検討することも考えられる。

(ウ) SDGs フォーラム（学生サミット）について

①現状・課題の整理

- SDGs 活動を行っている学生が社会で将来活躍することを踏まえ、基礎自治体の取組を認識してもらうために SDGs 未来都市の取組発表を組み込んだ。岐阜市と岐阜大のサークルがその後連携を模索するなどの成果も見られたが、学生側と自治体側の優先順位の違いも見られ、議論をよりよく進めることができるようにすることが課題である。
- 学生グループの取組発表は参加学生に大きな刺激となり、ESD 実践の成果は大きかったと考えられる。ただ、オンライン形式であったこともあり、参加者相互の交流の枠組みが十分とは言えなかった。
- また YouTube 視聴の一般参加者は必ずしも多くはなく、個々の取組事例やディスカッションの成果を発信し他の一般の若者と共有することが課題となる。
- 参加学生グループは 8 団体となり、参加者は拡大した。ただし開催現場としてはボリュームとして限界に近く、より多くのユースへの参加を求めるには工夫が必要である。

②今後の展開

- 参加方法については広域の中部地方全体から遠隔地を含めてのアクセスを考えると今後もオンラインをベースにイベント設計をするのが現実的である。ただリアリティ感を考えてハブの参加者を増やしたりサテライト設置するなど臨場感を出すことが考えられる。
- 参加学生相互の交流を促すために、許可を得てメールアドレスを共有したり、ウェブ上で振り返り掲示板を設置する等も考えられる。
- ディスカッションは運営会議の委員にファシリテーターをお願いしたが、より充実させるために、事前に方法論を検討する場を設けることも考えられる。

(エ) その他の ESD 支援や関連の取組について

①現状・課題の整理

- 1) 全国センターをハブとし地方センター中核を構成している ESD 活動推進ネットワークでは、ESD 推進のための戦略的方針の検討が進められている。当センターもそれに対応していくことが課題となる。
- 2) 行政、企業、教育機関などからの SDGs の取組普及についての相談が増加しており、人材紹介、講師派遣、企画提案などを実施している。今後効率化のためある程度パッケージ化やプログラム化を進めることが必要と考えられる。

②今後の展開

- 1) 検討されている ESD 推進のための戦略的方針「ESD 推進ネットワーク成果と課題及び今後の取り組みの方向性（提言）骨子案」では ESD 推進を様々な分野で位置づけるとともに、優先重要テーマとして「気候変動教育」が取り上げられ、地球温暖化防止活動推進センター（温セと略）ネットワークとの連携が提案されている。請負団体が温セに指定されている利点を活かすと共に作成中のワークブックに事例を反映させることが考えられる。
- 2) ESD・SDGs 取組を普及させるために、現在公開されている SDGs チェックリストをはじめとするツール類を充実し、他の公開パッケージと連携させていくとともに、ワークブックの体系に位置づけ活用しやすくすることが考えられる。また事例を動画化し公開することも検討の余地がある。

エ イベント参加者アンケート結果より

- EPO 業務、ESD 業務の全てのイベントにおいて参加者アンケートを実施している。
- オンライン開催、ハイブリッド開催によるイベントでは、オンライン参加者のアンケート回答数が少なく、集計結果を参考値として整理を行った。
- 特に YouTube での視聴による参加者はアンケートの回収が難しく、工夫が必要と考えらえる。
- 回答を得られた参加者アンケートの集計結果をみると、全体的にどのイベントに対する評価も高く、役立つ情報・事例があったか否かの設問でも「あった」の回答が比較的多い。

		●今回の催事はいかがでしたか(5段階評価)						
		5/5段階	4/5段階	3/5段階	2/5段階	1/5段階	無回答	
EPO 業務	211120越前フォーラム (n=11)	6	3	2	0	0	0	
	220119共生圏セミナー (n=9)	1	5	3	0	0	0	
ESD 業務	210823学び合い① (n=16)	7	7	1	1	0	0	
	210916学び合い② (n=12)	6	2	2	1	1	0	
	211030実践セミナー (n=25)	15	9	1	0	0	0	
	211113ESDダイアログ (n=18)	13	2	1	0	0	2	
	220219SDGs学生サミット (n=1)	0	1	0	0	0	0	
基盤強 化業務	210626飯山ミーティング (n=6)	4	2	0	0	0	0	
	220223ななお会合 (n=8)	6	1	1	0	0	0	
EPO業務・計(n=20)		7	8	5	0	0	0	
ESD業務・計(n=72)		41	21	5	2	1	2	
基盤強化業務・計(n=14)		10	3	1	0	0	0	
全体(n=106)		58	32	11	2	1	2	

		●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
		あった	なかった	どちらともいえない	無回答
EPO 業務	211120越前フォーラム (n=11)	8	0	3	0
	220119共生圏セミナー (n=9)	8	0	1	0
ESD 業務	210823学び合い① (n=16)	11	1	4	0
	210916学び合い② (n=12)	9	0	3	0
	211030実践セミナー (n=25)	22	0	3	0
	211113ESDダイアログ (n=18)	15	0	1	2
	220219SDGs学生サミット (n=1)	1	0	0	0
基盤強 化業務	210626飯山ミーティング (n=6)	5	1	0	0
	220223ななお会合 (n=8)	8	0	0	0
EPO業務・計(n=20)		16	0	4	0
ESD業務・計(n=72)		58	1	11	2
基盤強化業務・計(n=14)		13	1	0	0
全体(n=106)		87	2	15	2

【具体的に役立つ情報・事例の内容とは】

211120 越前 フォーラム	どじょうれすとらんに参加したいと思った
	義務で保全するのではなく、保全活動者もその協力者(観光客)も楽しく、お金をおとしてもらえるような仕組みづくりが大事なのではと思いました。
	交付金だけに頼らない自立した活動を考えて行かなくてはならないとの思いを深めました。
	自分の山を少しずつ整備をしようと思いました。
	取り組み事例
	発表の中での里山の荒発表！！ 遊び7分で収益をあげて自律した組織づくり、補助金にたよらない
220119 共生 圏セミナー	EPO 中部様との共同事業を検討してみたいと思いました。
	SDGs を計画に反映していくにあたっての考え方
	温対法実行計画の見直しにあたっての参考になった。
	取り組みの評価の見える化の方法 地域課題の把握と解決方法についての考え方
210823 学び 合い①	SDGsのロゴマークのスパイラルアップの図。ストンと意味が落ちました。
	SDGs を進めていくにあたって、リーダーの考え方が変わりました。つなぎ役というか周りの人の話をよく聴き皆さんから内発の力を引き出していくことができる人だと感じました。
	学校と地域が一緒になって取り組んでいる事例
	私は行政の職員です。行政からの環境教育や普及啓発はどうしても押しつけのようになりがちですが、内発的動機づけ3要素の受容性、また、子供たちの知る権利、言う権利、決める権利というエッセンスは今後の施策を考える上でも心に留めたいと、非常に参考になりました。
	また、パネルディスカッションで議論されていた「場を作るキーパーソンとそれを支える組織」という関係性は、正に昨今重要視されている民間と行政との協働であると再認識し、地域の力の大切さを実感しました。
	自身がこれまで進めてきた取り組みに関して、方向性としては間違っていないことが再確認できたと同時に、学びによる「人の変容」にも少しフォーカスできれば(≡参加者本人に変容に自覚してもらうこと)ができればよかったと反省した。今後、実践していこうと思う。
	水上さんの「まち作りの取り組み」
	水上先生の論理的な裏付けに基づいた地域活動。進化していく様子に刺激を受けました。
	大関地区での取り組みと、子どもたちの関わり方
	大関地区の取り組み 福井県坂井市の取り組み
210916 学び 合い②	・「発信する」という取組みが、大きな成果を生み出すことに繋がると改めて感じた。
	・「環境>社会>経済」は改めてハッとさせられた。
	SDGs 活動3つのポイントについて理解が深まりました
	なぜローカル SDGs かということや、富山の例
	各地域の動きが見えて大きな刺激になりました
	共生、担い手、グローバル⇄ローカル
	古澤さん 古澤さん 流域圏という考え方がとても参考になりました。 都道府県・市町村区切りをすると地域特性が異なり共通テーマ等の見出しに大変苦労していましたが、地形に沿ったエリア設定をすることで自然とグルーピングができるというヒントをいただきました。 市町村という行政区域ではなく、河川流域による地域区分が有効ということ
211030 実践 セミナー	SDGs のあり方 一つ一つの線で SDGs を捉えるということ
	SDGs はひとつひとつででない それぞれのつながりを考えて目標を達成する。そうそれぞれのたちばでどうつながって解決するか
	SDGsは個人、組織、行政、自治体、企業、学校、NPOなどみんなが関わりあっていかねば達成が困難であることを再認識しました。
	SDGs は線形の問題解決ではなく、統合的問題解決が重要であるという情報
	SNS で呼びかける
	グループワークでの考え方、他グループ含め
	ごみをポイすてしない
	どんなごみが落ちているか
	河川にごみが集まる原因を理解し、原因がそこに住む地域でなかったとしても 取り組むべき課題であり、その解決方法を一緒に考えていく必要があること。を参加していた若い世代が理解していた点が素晴らしかった。そこまで導くためのインプットがとてもよかったです。
	課題が SDGs の何番とつながるか色々な考えだあり可能性があると思った
	海洋プラゴミの現実、実態、等

	<p>個人の協働へ、組織自治会・企業が参加する</p> <p>午前しか見れませんでした、ハンゲル文字とか無く国内ゴミだと言う事に、驚きとショックを覚えました。私の地域でもイベントにてゴミの持ち帰りを呼びかけてます。と言う実行委員、会場からはゴミを持って出ても、ゴミを持って満員電車に乗れ無いと、その辺に置いて帰る。意識改革が最大の問題</p> <p>佐藤先生の話</p> <p>地元がどのような現象にあるか分かることができたこと 多くの人の意見や考えを知れたこと</p> <p>幅広い知識や考えを頂いた</p> <p>様々なデータを基に私たちが知らなかった現実を知ることができた</p> <p>流れつくゴミは県内からのものがほとんど</p> <p>六渡寺海岸での取り組み アジェンダ作り SDGs のしくみ</p> <p>六渡寺自治会の役割を知った</p>
211113ESD ダイアログ	<p>ジオツーリズムに参加したいと思った</p> <p>ジオパークは理科や道徳、特活、総合的な学習の中で、よてもよい題材教材となると思っていたのですが、本日参加をして社会科でも活用できるのではないかと感じました。社会科では自然環境を社会生活や文化の形成、観光等に生かしていることを学ぶ単元があるのでジオパークがとてもよい教材になると思います。</p> <p>ジオパークを学校教育に生かす手法や例をたくさん聞かせていただき自分もどのようにしていけばよいか参考になった。SDGsを進めるには教育(幼、小、中、高)が大切、ESDの必要性を改めて感じた。</p> <p>すべてとの報告も参考となるものがたくさんあった</p> <p>それぞれの発表の中で学べる点は多々ありましたが、特に南アルプスジオパークさんのガイドに関する活動は参考になりました。</p> <p>各地の特色を生かして、教育に生かしていることがわかった。本市でも伝えていきたい。</p> <p>学校との連携の具体的な内容が多く示されたこと。</p> <p>学校の取り組み体制</p> <p>具体的な事例を基に発表いただいた、総合的な学習で採用されているのは知っていたが、行政側の協力がかけないと。各市町村に温度差があるのは仕方無いにしても学校のカリキュラムにもっと取り入れてくれるようになれば有難い</p> <p>高遠高校の取り組み 滑川市の取り組み</p> <p>高校生に向けての教育実施の優越感</p> <p>自然との共生・水とのかかわりを順を追って理解することが出来た</p> <p>地域に根差した子供たちと一緒に地域の宝を考えているところ</p> <p>白山手取川ジオパーク-ふぐの子ぬか漬-実際にその土地で食べられている食べ物をジオと関連付けて子供たちに伝えることは学びが多く興味を持ちやすいなと思いました。</p> <p>様々な学習のやり方、ターゲットを説明していただきためになった。</p>
220219SDGs 学生サミット	<p>他大学学生の様々な取り組み事例自体を知れたことが何よりも参考になりました。</p> <p>210626 飯山ミーティング</p> <p>それぞれの多様な取り組みを知ること自体が大変参考になりました。</p> <p>地域循環共生圏について、まちづくり協議会での活動事例を紹介します。花いっぱい運動に取り組んだ時に、地域の高校で生産された花苗を400ポット(1ポット50円)購入しました。活動時の参加者には地元の個人商店で買ったお茶を提供しています。グラウンドゴルフ大会で50円のコースでホールインワンしたときには、地元の海産物生産会社の生ワカメ2袋提供が恒例となっています。広報誌も地元の印刷業者に発注しています。これからも地域の企業に協力できるものはないかと考えながら取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>地域循環共生圏の考え方、国立公園協働型管理運営の実例、飯山林福連携事業の具体的な内容、学びの里コミュニティカレッジの理念や活動など、多々参考になりました。</p> <p>様々なステークホルダーが進化され、多くの視点で大変参考となる話が聞けたこと</p> <p>里山ウェルネス研究会の活動・取り組みを知ることができてよかった。</p>
220223 なな お会合	<p>ワクワク感を忘れない！みんなと繋がりたいなど閃きたいです。</p> <p>活動事例の紹介があり、参考になった。</p> <p>谷中さんの思想哲学とアプローチ手法</p> <p>谷中先生のお話でのSDGs、ワクワクしながら行動する</p> <p>谷中先生の内容</p> <p>谷中先生を知れたこと。ローカルSDGs創設のプロセス</p> <p>地域経済エコシステムが相互補完関係であること</p> <p>価値創造型事例とても参考になりました</p> <p>実際の体制づくりの難しさ、共有いただけて参考になりました</p> <p>皆さん全国でご活躍されている方でどの事例も参考になりました</p>

- 今後の活動への積極性が喚起されたか否かの設問でも、ほとんどが肯定的な回答となっている。

		●協働/SDGs等に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
		もっと協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	協働に取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
EPO 業務	211120越前フォーラム (n=11)	8	2	0	1	0
	220119共生圏セミナー (n=9)	6	1	1	1	0
ESD 業務	210823学び合い① (n=16)	8	2	0	1	0
	210916学び合い② (n=12)	9	2	0	1	0
	211030実践セミナー (n=25)	23	1	0	0	1
	211113ESDダイアログ (n=18)	14	2	0	0	2
	220219SDGs学生サミット (n=1)	1	0	0	0	0
基盤強 化業務	210626飯山ミーティング (n=6)	6	0	0	0	0
	220223ななお会合 (n=8)	8	0	0	0	0
EPO業務・計(n=20)		14	3	1	2	0
ESD業務・計(n=72)		60	7	0	2	3
基盤強化業務・計(n=14)		14	0	0	0	0
全体(n=106)		88	10	1	4	3

- 今後、参加してみたいセミナー、フォーラム等のイベントのテーマ、内容等についてたずねた設問では、次の通り、個別具体的な内容を含めた様々な回答がみられた。
- ESD イベントでは、学校現場、教育・人材育成等に関わる取組事例が知りたいといった回答が多く、事例に対するニーズの高さがうかがえる。

【今後参加してみたいイベント】

211120 越前 フォーラム	ドジョウ養食に関するもの、おいしい米づくりに関するもの
	ローカル SDGs 地域循環共生圏につながる事例(保全-体験-お金をおとしてもらうしくみ)
	昔のくらしを聞いたり、体験したり、少し不便な暮らしの良さを知ってほしい
	米の栽培研究会
220119 共生 圏セミナー	ゼロカーボン社会へのロードマップと現状の立ち位置を検討する会
	経済的な側面をお話いただける方のお話を伺ってみたい。
210823 学び 合い①	SDGsと建築の関係について。SDGsと障がい者の関係について
	ローカル SDGs と会社の取り組みについての事例や、世界的・日本全国的に見た SDGs の必要性など
	学校現場における SDGs の実践と課題。
	環境問題
	今回のようなセミナーを月一で開催して下さるとうれしいです。
210916 学び 合い②	市民ボランティアと行政と地域企業と学術専門家との協働(パートナーシップ)の芽吹き、開花、結実、そしてしっかり根を張る。サステナブル活動事例の紹介
	ESD を考えるフォーラム
	SDGsの いろんな団体の取組み
企業の人材育成にて、どう SDGsを普及できるか？事例も交えて解説いただきたい。	

	参加されていた、清水義彦氏(富山大学)で 学校で SDGs を取り組むことで生徒の進路に影響が出るというお話に興味を持ちました。「探究」の時間を持って余ってしまう学校教員の方々に「SDGs を実践することが生徒の進路選択のステップとなりうる」として、ESD を探究学習に採用していただける可能性を感じたので、関連したお話をきかせていただきたいと感じました。
	社会貢献と SDGs
	障がい者への SDGs 対応について
	地域創生と SDGs
211030 実践 セミナー	13. 気候変動 SDGs と人権
	SDGs セミナーに参加したい
	いろいろなテーマでSDGsの取り組みについて知ってみたいです。
	その地域住民とのワーク
	もっと若者が興味をもつイベントを開催してみたい
	海ゴミもひとつだが気候変動のセミナー・フォーラムに参加したい
	学校等で話しをしてほしい
	環境問題など(プラスチックやごみ)
	自然の大切さを感じられるもの、日常生活と結びつける
	実践の場を増やしてほしい
	多くの人に SDGs について知ってもらいたい
211113ESD ダイアログ	ESD が何なのかを解かるセミナーがあれば広がるかなと 教員向けに
	コーディネーターが適切に問題・課題。パネリストを指名されたのは非常に分かり易くなった。限られた時間でまとめていただきありがとうございます。
	各地の取組みを聞くことが出来た、今後のガイドの取組の参考にできるよう構築を考えてみたい。ディスカッションは、指導者としての内容があった、まだ難しい問題が多いことがうかがえた
	学生と現場実践の対話の場
	今回の内容をもっと広く募集 参加者増えればよい
	他の学校とジオツアーをくむ
	南アルプスのことを全然知らなかったの、何かしら参加してみたいと思いました。
本日最後のパネルディスカッションがとても興味深い内容で、もとたくさんお話を聞きたかったです	
220219SDGs 学生サミット	同じような SDGs 活動をしている人達を集めた課題共有発展型のセミナーがあれば良いなと思いました。
210626 飯山 ミーティング	今回のような身近な地域での活動事例の紹介
	飯山ミーティングを重ねて頂きたいです。今回広範な内容で全体像をぼんやり掴めたと思うので、飯山の地に落としていく、具体的なアイデアについて話し合うフォーラムに期待します。
220223 なな お会合	SDGs 大学の参加、できればしたい
	やってみる！がテーマの伴走型セミナー(複数回でフォローする塾形式)
	三重県の SDGs、SDGs 先導者の育て方 地域の多様な主体集まる機会となるセミナー

【末尾・自由記入欄の感想など】

211120 越前 フォーラム	1人1人の心かけが大切
	これからもなかなか続けにくい取り組みがあると思うが、友達をさそい合っでの参加者をふやしていきたいと思う。
	経営が重要であることが理解できました。ビジネス最優先でゆくべきだ！ 地域の今後の取組みについて再考していきたい。
220119 共生 圏セミナー	リモート参加としては興味ありますが、意見(チャットや付箋)の操作方法が分からず時間が過ぎてしまったのが残念でした。
	本日の講演の中では、皆様が SDGs や環境問題を経済的な有利性に繋げるお話をされてみえたと思います。企業として、必要と考えるから取り組むのか、儲かるから取り組むのか、取り組まなければ置いていかれるから取り組むのか、そのあたりの率直なご意見を伺いたい。また、取り組んだことで業績に変化があったのか、取り組まなければどうなっていたと予想されるかといったお話も伺えるとありがたい。
210823 学び 合い①	SDGs の概要から地域の取り組みまで、詳しく教えてくださいありがとうございました。自分自身も SDGs 達成に向けた社会の当事者としての意識が改めて生まれました。
	SDGs は、大きな学術的課題ではなく、一人一人のできることの集合であると感じました。 会社の上層部で少しずつ認知されてきました。自分自身は2019年学生時代に活動して、広めてそこで終わってしまいました。社会人になった今、自分の身の回りでも SDGs を耳にしますし、広告もたくさんあります。会社の中で広めるとしたらどういう名目で、広めるのが良いのか気になりました。

	<p>各県からの参加があつて面白かつた。もっと、チャットでいろいろな意見を書き込んでくれるとよかつた。</p> <p>学術的な話が速くてついていけなかつた。秋田県の実践も、素晴らしいなど感じながらやはり速くてレジュメについて行けない。資料がほしいです。</p> <p>刺激的で興奮し、自らの啓発の種になりました。</p> <p>視聴中に佐藤氏の資料をダウンロード出来なかつたため、ぜひメールで資料もしくはダウンロード先を添付していただきたいです。</p> <p>素直にチャットに意見を書かれていた方の声が大それたと思つた反面 まだこの段階かとの進んでいない地域(大人)と学校(生徒、教員)の関わりにショックを覚えた 登壇された水上さんたち大関の取り組みのような事がどんどん行われて行く事を願います。</p> <p>恥ずかしながら、知らないことがたくさんあつて、難しい内容もありました。MDGsのお話も今日初めて知りました。私が学校の社会科で取り組んでいる新聞づくりなどは、ローカルSDGsに該当すると思ひました。</p> <p>非常に参考になりました。</p> <p>とても興味深いお話であつたという間に時間が過ぎました。</p> <p>皆さんの発表、パネルディスカッションともに、もう少し長い時間をとっていただいても良かったかなと思ひます。</p> <p>また、YouTube等で再度視聴することができると大変ありがたいです。</p>
210916 学び 合い②	<p>SDGs 未来都市を目指していたころから、セミナーに参加しております。サボテンと障がい者、CO2を活用した農業ビジネスなどをやりたいと考えています。</p> <p>あつという間に終了でした。これから・・・というところで終わるのがいいのかもしれませんが、次回につながりますね。ぼーっとしていたところに最後に塚さんから話をふられて汗をかきました、苦笑</p> <p>始めて参加しましたがかなり高度な内容ですね。</p> <p>前回に引き続き、理論的なお話の他、具体的な実践のお話もうかがえました。参考になりました。学校教育でのESDの話題が増えると、教員の参考になると思ひます。</p> <p>全セミナーのレジュメまとめなどがGooglefフォームにまとめられていたらなおありがたいと思ひました。</p> <p>大変よかつたです。</p> <p>当たり前なことを再確認できた気がする。</p> <p>非常におもしろく聞かせていただき、勉強になりました。「テーマの関連」を強く意識する回となりました。SDGsの追い風の時期だからこそできることが増えており、その機会をつかみ取って上手く活用されている実践例を見せていただきました。真似をさせていただきます。ありがとうございました。</p>
211030 実践 セミナー	<p>SDGs、そして社会を考えていく重要性を再認識できた</p> <p>SDGsについて学ぶことが多かつた。</p> <p>SDGsへの捉え方が非常に勉強になった。会社にいるだけではわからないことだったので参加できて良かったと思ふ</p> <p>いろいろ勉強になりました</p> <p>スタッフ皆様お疲れ様でした。現場と配信のハイフレックスに加えて、海岸から中継ライブとのことで、ご準備等大変だと思ひます。一緒にドキドキしながらyoutubeから拝見させていただきました。お見事でした！</p> <p>すばらしい内容でした ありがとうございます</p> <p>もっと多くの人に知ってもらいたい内容でした。ありがとうございました</p> <p>海洋ごみの問題は、海岸沿いの人々より、内陸の人にこそ知ってほしい問題だと思ひました。</p> <p>開催ありがとうございました。</p> <p>気軽に、失敗などを気にせず話せる。空気づくりが大切。お互いを尊重する。</p> <p>漁業が有名な射水市の海の現状を知れてよかつたです。貴重な体験を多くの人にも受けてもらいたい。</p> <p>高校生と何年ぶりに話したか？いいしげきになる</p> <p>今日、実際に参加してみて海岸のゴミの多さにおどろいた。それでも綺麗な方だと言っていたので、もっと真剣にこの問題に取り込まなければいけないと思つた。</p> <p>今日で初めて知つたことで気づいたことをこの会を通して自分でできることは何かと考えさせられました。</p> <p>今日は海岸でゴミ拾いなどはできませんでしたが、ズームの中継で実際にしているような臨場感があり、現地にいるような気分になれました。ずっと撮影してくださつてありがとうございました。午後の部も、参加されてる方たちの意見を見たり聞いたりできて、一緒に問題解決に取り組んでいるような気がして、とてもよかつたです。</p> <p>今日は別の用があり午後が見れなかつた、帰宅後に再生出来ず残念だつた</p> <p>自分のかよっている高校の近くにある海岸が県内で一番ゴミが流れつくところだということを知つておどろきました。たくさんのことを知れてよかつたです。</p> <p>実際にこのようようなことをしてみても、ごみは環境にとっても悪いことがわかつた。</p> <p>進行がグダグダだつた</p> <p>大学院の先生や環境省の方など普段交流できない方と広く関わることができてよかつたです。また進路の相談などにものっていただけて嬉しかつたし、SDGsについて深く知れて楽しかつたです。</p> <p>大人しかいないグループでしたがとてもフレンドリーに話しかけてくださつてとても助かつたし、有意義な時間を過ごさせていただき、考えも深まつたので感謝したい</p> <p>地元の話から知識を得ることができてよかつた この学んだことを多くの人に広めていきたいと思ふ</p>

	非常にためになるセミナーでした、ありがとうございます。 話題提供の講演2件は資料もしっかりしていて、お話はよく分かりました。
211113ESD ダイアログ	ESDもよく分からず参加しましたが、とてもよく理解できました。郷土学習が大切であることは感じていたが、ジオを結び付けるとより効果的であることを再確認できました。学校教育のめざすべき姿の変化を感じる会であった。 ありがとうございました。 ジオパークを教育に活用することで「地域から社会が見える」「地域から地球が見える」効果を高めることができると感じました。教科書の中にある「どこかの世界」を学ぶよりも社会や地球のつくりを実感を伴って学ぶことができると思います。 どれも大変興味深い内容であっただけに、もう少しそれぞれの話を聴く事ができればなお良かった。 一生懸命取り組んでいらっしゃる方の発表に感動、刺激をいただきました 教育現場に参入するのはとてもむずかしいと感じます。 長時間だがメリハリのある進行でよかった 富山においては環境教育を普及しやすい地域。SDGsに積極的でもあるため、実際に当方でも各地からの教育旅行(高校生)の受入が活発となっている 様々な活動を行っている中で、やはり広告(アピール)力が課題に挙げられてると思いました。自分も参加してみたい、もっと知りたいと思える活動がたくさんありました。こちら側の発信そして人々のアンテナ共に活発になるよう学生として努めていきたいです。
220219SDGs 学生サミット	大学関係なくコラボできるようになると、より発展的なものが生まれると感じました。
210626 飯山 ミーティング	オンラインで運営する事務局の方の対応が素晴らしかったです。 皆様の貴重なお話を伺う機会をいただきましてありがとうございました。 みなさんが共通して話していらした、「あるものに目を向ける」「皆が役割を果たしつつ自分の問題だと理解する」「自分の人生の中にSDGsの文脈が見えてくること」という言葉が非常に印象的でした。 こうやって共有していくことの大切さを痛感しました。 大変参考になりました。 大変重要なテーマであり、かつ各省庁や地元の方、学識経験者の話題提供がそろっていたので、地元の方の参加がもっとたくさんあれば良いのになと思いました。こうした催しに地元の方を巻き込む工夫についても、またフォーラム等で議論できたらと思います。EPOの皆さまには多少枠外になるかもしれませんが、EPOのコンセプトが広範に影響を及ぼしうるので、ぜひイニシアティブを取っていただきたいです。本日はどうもありがとうございました。
220223 なな お会合	「地域課題&フレームワーク」ばかりだと似たような結論に帰着するので、「価値創造アイデア&ワクワク感」で突き抜ける取組に魅力を感じました。その意味でいうと、型にはまった補助金・助成金を活用すると、小さく縮こまってしまいう印象を受けたので、取組成果を後付けで申請(または発見してもらい)し補助する制度があっても良いと思います。 SDGsという言葉はよく聞きながらも理解があまりされていなく、周りはそういう人達がいるためこのような機会があれば参加をすすめていきたいと思えます どの講演も非常に興味深かったのですが、特に谷中様のプレゼンは具体事例も多くて分かりやすく、惹き付けられる内容でした。 今日の谷中先生のセミナーはドキドキしながら聞かせて頂きました。 本日は貴重なセミナーを開催していただきありがとうございます。 私は三重県の地方銀行でSDGsを広めるための活動をしておりますが、まだまだ初心者で勉強中の身であります。 今後、地域の企業の皆様に本質的にSDGsを理解し、取り組みし、事業に活かしていただけるような活動をしたいと思っております。 知識はまだですが、熱い思いだけはまけません！是非力をお貸しください！ 特に谷中先生！一度お話しをお聞きしたいです！ 私も楽しみながらSDGsハッスルしていきたいです！ 本日は有難うございました 本入り口でしたがわかりやすくとても勉強になりました 欲望へのブレーキは楽しみながら実践出来る環境にどんどんなればと感じました 今、仕事で目標をたてなければいけないところだったので参考にさせていただきます

《参考》回答者の属性の集計結果

		●年齢							
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明
EPO 業務	211120越前フォーラム (n=11)	0	1	1	2	1	3	1	2
	220119共生圏セミナー (n=9)	0	2	2	1	1	2	1	0
ESD 業務	210823学び合い① (n=16)	0	2	1	7	2	2	2	0
	210916学び合い② (n=12)	0	2	0	2	4	2	2	0
	211030実践セミナー (n=25)	10	2	0	3	7	2	1	0
	211113ESDダイアログ (n=18)	0	2	3	2	2	3	6	0
	220219SDGs学生サミット (n=1)	0	0	1	0	0	0	0	0
基盤強 化業務	210626飯山ミーティング (n=6)	0	0	1	3	0	0	2	0
	220223ななお会合 (n=8)	0	0	4	1	2	0	1	0
EPO業務・計(n=20)		0	3	3	3	2	5	2	2
ESD業務・計(n=72)		10	8	5	14	15	9	11	0
基盤強化業務・計(n=14)		0	0	5	4	2	0	3	0
全体(n=106)		10	11	13	21	19	14	16	2

		●所属先						
		NPO・NGO・ 任意団体	企業・事業 者	行政機関	学校・教育 関係	学生	その他	不明
EPO 業務	211120越前フォーラム (n=11)	2	2	2	0	0	4	1
	220119共生圏セミナー (n=9)	2	1	5	0	0	1	0
ESD 業務	210823学び合い① (n=16)	3	5	3	3	0	2	0
	210916学び合い② (n=12)	3	4	1	2	0	2	0
	211030実践セミナー (n=25)	2	7	1	3	8	3	1
	211113ESDダイアログ (n=18)	6	0	4	3	1	4	0
	220219SDGs学生サミット (n=1)	0	0	0	0	0	0	1
基盤強 化業務	210626飯山ミーティング (n=6)	2	0	1	3	0	0	0
	220223ななお会合 (n=8)	1	3	1	0	0	3	0
EPO業務・計(n=20)		4	3	7	0	0	5	1
ESD業務・計(n=72)		14	16	9	11	9	11	2
基盤強化業務・計(n=14)		3	3	2	3	0	3	0
全体(n=106)		21	22	18	14	9	19	3

		●活動分野のSDGs								
		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基礎をつくらう
EPO業務	211120越前フォーラム (n=11)	0	0	2	1	0	1	2	1	2
	220119共生圏セミナー (n=9)	1	1	2	2	1	3	6	1	2
ESD業務	210823学び合い① (n=16)	4	0	5	9	4	3	3	2	1
	210916学び合い② (n=12)	2	3	3	8	1	3	7	6	4
	211030実践セミナー (n=25)	3	1	4	9	5	2	1	2	2
	211113ESDダイアログ (n=18)	2	1	2	13	4	2	4	4	3
	220219SDGs学生サミット (n=1)	1	0	1	0	0	0	1	0	0
基盤強化業務	210626飯山ミーティング (n=6)	1	0	2	2	2	0	3	2	1
	220223ななお会合 (n=8)	1	1	3	3	1	0	0	4	2
EPO業務・計(n=20)		1	1	4	3	1	4	8	2	4
ESD業務・計(n=72)		12	5	15	39	14	10	16	14	10
基盤強化業務・計(n=14)		2	1	5	5	3	0	3	6	3
全体(n=106)		15	7	24	47	18	14	27	22	17

		10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任、つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	16. 平和を公正をすべての人に	17. パートナーシップで目標を達成しよう	無回答
		EPO業務	211120越前フォーラム (n=11)	0	4	1	1	2	3	0
220119共生圏セミナー (n=9)	0		6	4	6	5	6	0	4	1
ESD業務	210823学び合い① (n=16)	2	9	4	5	6	6	3	7	1
	210916学び合い② (n=12)	3	8	6	7	3	5	1	8	0
	211030実践セミナー (n=25)	1	4	6	4	7	6	3	9	6
	211113ESDダイアログ (n=18)	2	8	5	6	10	12	3	9	3
	220219SDGs学生サミット (n=1)	1	1	1	0	0	0	1	0	0
基盤強化業務	210626飯山ミーティング (n=6)	1	4	3	3	1	2	2	4	0
	220223ななお会合 (n=8)	0	4	2	2	4	4	1	5	1
EPO業務・計(n=20)		0	10	5	7	7	9	0	5	8
ESD業務・計(n=72)		9	30	22	22	26	29	11	33	10
基盤強化業務・計(n=14)		1	8	5	5	5	6	3	9	1
全体(n=106)		10	48	32	34	38	44	14	47	19

令和3（2021）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2022年3月

発行：環境省中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889
URL：<http://chubu.env.go.jp>

作成：中部環境パートナーシップオフィス

（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4階
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606
URL：<http://www.epo-chubu.jp>